

中切上野遺跡
(第3分冊)

2024

岐阜県文化財保護センター

なか ぎり うわ の
中 切 上 野 遺 跡
(第3分冊)

2 0 2 4

岐阜県文化財保護センター

目 次（第3分冊）

第5章 総括	1
第1節 縄文時代の集落について	1
第2節 中切上野5号古墳及び方形周溝墓(SZ1)について	17
第3節 土地利用の変遷について	20
引用・参考文献	21
写真図版	

第1分冊目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法と経過	
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3節 過去の調査	
第3章 調査の成果	
第1節 遺跡の基本層序	
第2節 遺構・遺物の概要	
第3節 縄文時代の遺構と遺物	
報告書抄録	

第2分冊目次

第3章 調査の成果	
第3節 縄文時代の遺構・遺物	
第4節 弥生時代から古墳時代の遺構・遺物	
第5章 古代の遺構・遺物	
第6節 遺構外出土遺物	
発掘区全域図分割図	
遺構一覧表	
遺物一覧表	
第4章 自然科学分析	
第1節 分析の概要	
第2節 炭化樹種同定	
第3節 放射性炭素年代測定	

挿図目次

図 376 遺跡の立地	1	図 381 中期の遺構	10
図 377 早期・前期の遺構	2	図 382 中期の主な遺構	11
図 378 前期の竪穴建物	3	図 383 繩文土器の時期別出土分布図	13
図 379 前期の主な遺構	5	図 384 中切上野古墳群と周辺遺跡の立地	18
図 380 繩文土器の時期別出土分布図	7	図 385 弥生時代から古代の遺構	20

表目次

表 124 各遺跡の早期中葉から前期中葉の石器出土点数とその比率	8
表 125 各遺跡の前期後葉の石器出土点数とその比	13

写真図版目次

図版 1 発掘区近景	図版 21 繩文時代中期の遺構（2）
図版 2 発掘区近景	図版 22 繩文時代中期の遺構（3）
図版 3 発掘区近景	図版 23 繩文時代中期の遺構（4）
図版 4 繩文時代早期の遺構・繩文時代前期の遺構（1）	図版 24 繩文時代中期の遺構（5）
図版 5 繩文時代前期の遺構（2）	図版 25 繩文時代中期の遺構（6）
図版 6 繩文時代前期の遺構（3）	図版 26 繩文時代中期の遺構（7）
図版 7 繩文時代前期の遺構（4）	図版 27 繩文時代中期の遺構（8）
図版 8 繩文時代前期の遺構（5）	図版 28 繩文時代中期の遺構（9）
図版 9 繩文時代前期の遺構（6）	図版 29 繩文時代中期の遺構（10） ・弥生時代以降の遺構（1）
図版 10 繩文時代前期の遺構（7）	図版 30 弥生時代以降の遺構（2）
図版 11 繩文時代前期の遺構（8）	図版 31 出土遺物（1）
図版 12 繩文時代前期の遺構（9）	図版 32 出土遺物（2）
図版 13 繩文時代前期の遺構（10）	図版 33 出土遺物（3）
図版 14 繩文時代前期の遺構（11）	図版 34 出土遺物（4）
図版 15 繩文時代前期の遺構（12）	図版 35 出土遺物（5）
図版 16 繩文時代前期の遺構（13）	図版 36 出土遺物（6）
図版 17 繩文時代前期の遺構（14）	図版 37 出土遺物（7）
図版 18 繩文時代前期の遺構（15）	図版 38 出土遺物（8）
図版 19 繩文時代前期の遺構（16）	図版 39 出土遺物（9）
図版 20 繩文時代中期の遺構（1）	図版 40 出土遺物（10）

图版 41	出土遗物 (11)	图版 75	出土遗物 (45)
图版 42	出土遗物 (12)	图版 76	出土遗物 (46)
图版 43	出土遗物 (13)	图版 77	出土遗物 (47)
图版 44	出土遗物 (14)	图版 78	出土遗物 (48)
图版 45	出土遗物 (15)	图版 79	出土遗物 (49)
图版 46	出土遗物 (16)	图版 80	出土遗物 (50)
图版 47	出土遗物 (17)	图版 81	出土遗物 (51)
图版 48	出土遗物 (18)	图版 82	出土遗物 (52)
图版 49	出土遗物 (19)	图版 83	出土遗物 (53)
图版 50	出土遗物 (20)	图版 84	出土遗物 (54)
图版 51	出土遗物 (21)	图版 85	出土遗物 (55)
图版 52	出土遗物 (22)	图版 86	出土遗物 (56)
图版 53	出土遗物 (23)	图版 87	出土遗物 (57)
图版 54	出土遗物 (24)	图版 88	出土遗物 (58)
图版 55	出土遗物 (25)	图版 89	出土遗物 (59)
图版 56	出土遗物 (26)	图版 90	出土遗物 (60)
图版 57	出土遗物 (27)	图版 91	出土遗物 (61)
图版 58	出土遗物 (28)	图版 92	出土遗物 (62)
图版 59	出土遗物 (29)	图版 93	出土遗物 (63)
图版 60	出土遗物 (30)	图版 94	出土遗物 (64)
图版 61	出土遗物 (31)	图版 95	出土遗物 (65)
图版 62	出土遗物 (32)	图版 96	出土遗物 (66)
图版 63	出土遗物 (33)	图版 97	出土遗物 (67)
图版 64	出土遗物 (34)	图版 98	出土遗物 (68)
图版 65	出土遗物 (35)	图版 99	出土遗物 (69)
图版 66	出土遗物 (36)	图版 100	出土遗物 (70)
图版 67	出土遗物 (37)	图版 101	出土遗物 (71)
图版 68	出土遗物 (38)	图版 102	出土遗物 (72)
图版 69	出土遗物 (39)	图版 103	出土遗物 (73)
图版 70	出土遗物 (40)	图版 104	出土遗物 (74)
图版 71	出土遗物 (41)	图版 105	出土遗物 (75)
图版 72	出土遗物 (42)	图版 106	出土遗物 (76)
图版 73	出土遗物 (43)	图版 107	出土遗物 (77)
图版 74	出土遗物 (44)		

第5章 総括

第1節 縄文時代の集落について

今回の発掘調査では縄文時代から古代までの遺構・遺物を確認した。本稿では、遺跡の立地を確認した上で、平成8年度に高山市教育委員会によって行われた発掘調査の成果を含めて、各時期の遺構・遺物を概観し、土地利用の変遷について検討する。

1 発掘区の立地

現況地形図に調査前に実施した詳細地形測量図を合成し、平成8年度に高山市教育委員会が実施された発掘調査の発掘区（以下、「高山市発掘区」という）と当センターが実施した発掘調査の発掘区（以下、「センター発掘区」という）を図376に示し、各発掘区の傾斜や傾斜方向を整理した。当遺跡の立地については第2章第1節で説明したとおり、分岐した尾根との間に広がる扇状の傾斜地を中心立地する（図4参照）。高山市発掘区は遺跡の中央部から北西部、センター発掘区は南部に位置する。高山市発掘区とセンター発掘区の西端には、平坦面から痩せ尾根となる南北方向に延びる尾根筋がある。尾根の西側には、谷があるため急傾斜になる。尾根の東部は西部に比べ傾斜が緩く、高山

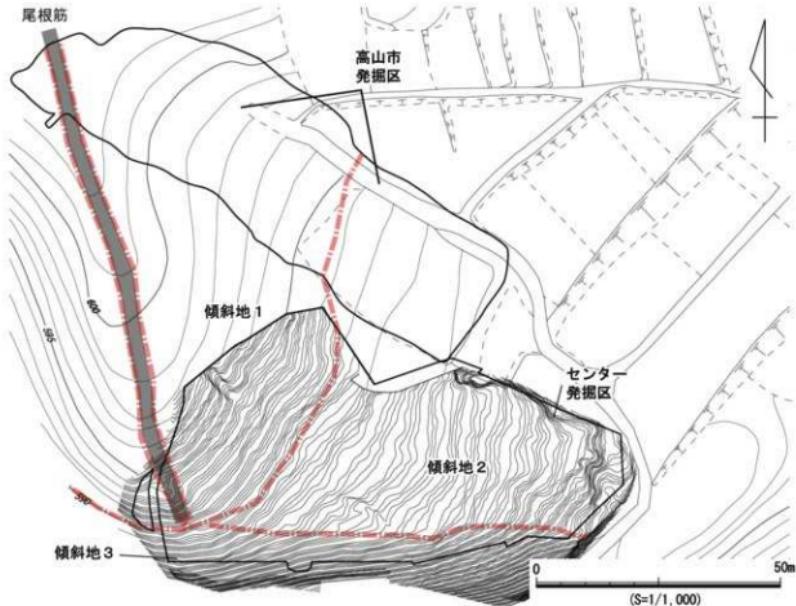


図376 遺跡の立地

市発掘区の中央から西側とセンター発掘区の西部がそれぞれ立地する（以下、「傾斜地1」という）。傾斜地1の傾斜方向は北西から南東に下降する。高山市発掘区の南東部とセンター発掘区の中央部・東部は傾斜地1に比べさらに傾斜が緩く¹⁾、傾斜方向は西から東に下降する（以下、「傾斜地2」という）。センター発掘区の南部は傾斜地1・2に比べ急傾斜で、北から南に下降する（以下、「傾斜地3」）という）。

2 各時期の様相

（1）早期

早期の遺構・遺物は少ないが、いずれも尾根筋に近い傾斜地1に立地する。センター発掘区西部で土坑墓(ST33)1基、高山市発掘区北西部で集石遺構2基を確認した。中切上野遺跡の報告書では集積遺構を早期に位置付けており²⁾、遺構内からの出土遺物がないが、遺構周辺で早期の土器が出土している。

（2）前期

①遺構について

前期の遺構は高山市発掘区とセンター発掘区全体に広がり、遺構の分布に粗密はあるものの、傾斜地1～3に立地する。堅穴建物50軒（高山市発掘区15軒、センター発掘区35軒）、土器埋設遺構2基（センター発掘区2基）、土坑墓30基（センター発掘区30基）のほか、土坑（高山市発掘区12基、

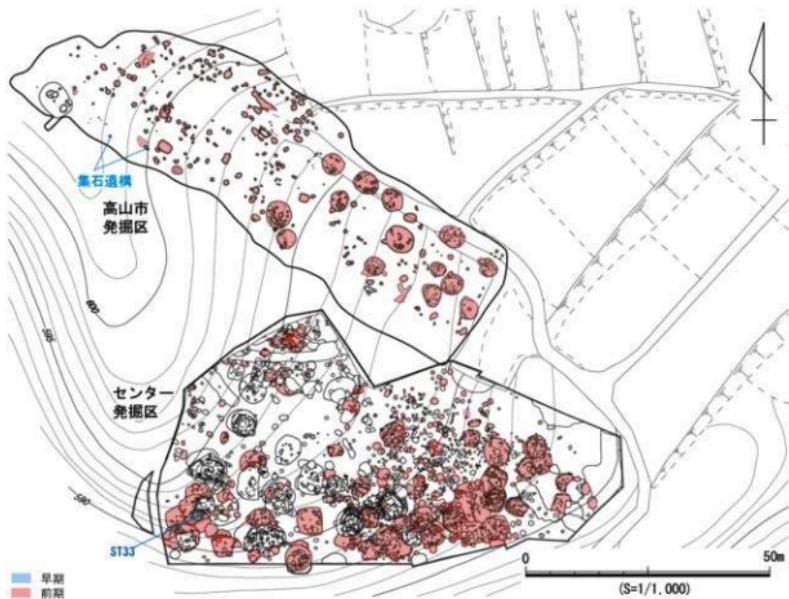


図377 早期・前期の遺構

センター発掘区 326 基) や単独柱穴 (高山市発掘区 253 基、センター発掘区 108 基) を確認した。高山市発掘区については、早期の集石遺構と中期の単独柱穴 (P297) 1 基、飛鳥時代の竪穴建物 (SB1) 以外の遺構は前期の遺構と考えられているため、当該期の遺構として図示したが、センター発掘区については、時期認定ができた竪穴建物、土器埋設遺構、土坑墓、集石土坑、土坑、単独柱穴を図示した (図 377)。以下、順に各遺構の特徴や分布状況について説明する。

竪穴建物 竪穴建物はすべて後葉のもので、高山市発掘区では傾斜地 2、センター発掘区の傾斜地 2 と 3 の境付近に多い。センター発掘区で確認した前期の竪穴建物³⁾のうち、竪穴建物の残存状況がよく、建物の規模や柱配置のわかる竪穴建物を図 378 に示した。竪穴建物の平面形は梢円に近い形状もあるが、不定な形状のものが多い。炉は擾乱を受け確認できなかった 6 軒を除き、37 軒で確認した。内訳は地床炉をもつ竪穴建物 35 軒、石囲炉をもつ竪穴建物 2 軒、炉をもたない竪穴建物 7 軒である。地床炉は浅い皿状の掘り込みをもつタイプと掘り込みがなく床面に熱により赤変のみが認められるタイプがあり、内訳は掘り込みのある地床炉をもつ竪穴建物が 13 軒 (高山市発掘区 SB3・7・9、センター発掘区 SI4・11・12・14・16・17・22・28・47・54)、掘り込みがない地床炉をもつ竪穴建物が 21 軒 (高山市発掘区 SB4～6・8・10～14・16、センター発掘区 SI2・7・9・10・21・23・40・43・49・53・55)、両方の地床炉をもつ竪穴建物が 1 軒 (センター発掘区 SI42) である。この他、比較的小振りな砾を用いた石囲炉をもつ竪穴建物を 2 軒 (高山市発掘区 SB13、センター発掘区 SI13) 確認した。主柱穴は 4～7 本のものがあり、掘方のほぼ中央から同心円上に 5・6 本配置されるものが多い。貯

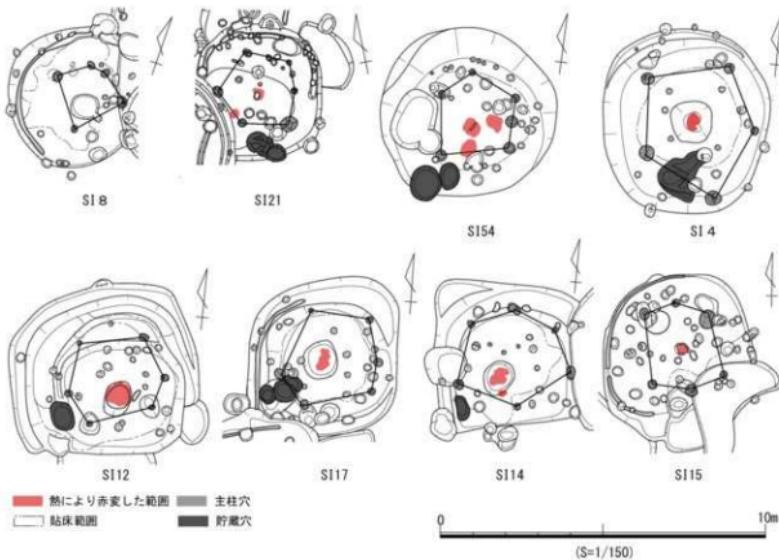


図 378 前期の竪穴建物

貯藏穴は擾乱を受け確認できなかった9軒を除き、41軒中17軒（高山市発掘区SB3・8～11・15、センター発掘区SI4・10～12・14・17・21・24・42・45・49）で確認した。貯藏穴の位置は堅穴建物内の南部・南西部の隅や主柱穴間に設置されるものが多い。堅穴建物内に設置される貯藏穴の事例は富山県に多いが、飛騨地域や東濃地域、愛知県山間部からも堅穴建物内に貯藏穴の可能性がある大型の土坑が確認されている⁴⁾ことから、富山県から愛知県山間部にかけての地域的特徴の可能性がある。

次に堅穴建物の重複関係や分布傾向を確認する。堅穴建物同士の重複は、高山市発掘区では確認されていないが、センター発掘区では傾斜地2・3の境付近で多く確認されている。堅穴建物の細別時期については本書第3章3節「2 前期の遺構」では触れていないのでここで説明する。堅穴建物の重複関係からSI3・8・13・21が他の堅穴建物より古く位置付けられる⁵⁾。出土土器では貯藏穴から北白川下層IIb式の1個体分の深鉢（414・415）が出土したSI54と、床面検出遺構の土器が北白川下層IIb式段階以前の土器で、埋土から出土した土器の大半が北白川下層IIb式段階以前の土器であるSI3・8・21があり、これらが北白川下層IIb式段階と考えられる。一方、SI13・22を含むその他の堅穴建物は、出土土器の大半が北白川下層IIc式段階であることから一段階新しい北白川下層IIc式段階の堅穴建物と考えられる。高山市発掘区の堅穴建物の細別時期は、出土土器で5時期（2-1期：諸磯b式中段階、2-2期：諸磯b式中～新段階、2-3期：諸磯b式新段階、2-4期：諸磯b式新段階～諸磯c式、2-5期：諸磯c式以降）に区分されている。2-1期とした諸磯b式中段階は北白川下層IIc式段階⁶⁾に併行すると考えられるため、センター発掘区に高山市発掘区の細別2-1期よりも古い段階の堅穴建物が存在することになる。図379に北白川下層IIb式段階と北白川下層IIc式段階の主要遺構の配置を示した。北白川下層IIb式段階の堅穴建物は、センター発掘区の標高591m以下の傾斜地2・3にSI3・8・21・54が構築される。北白川下層IIc式段階になると、堅穴建物はSI1・2・4～7・9～17・22・23・28・43のように北白川下層IIb式段階より広がり、概ね標高591m以下の傾斜地2・3に構築され結果的に堅穴建物が重複して確認される堅穴建物群と、SI24・30・31・36・40・42・44・45・47・49・53のように前者よりも標高の高い傾斜地2・3に構築され、一部堅穴建物の重複あるものの点在しながら確認される堅穴建物群がある。高山市発掘区の堅穴建物は図377のとおり傾斜地2を中心に点在する。高山市発掘区の堅穴建物は後者よりも北に位置するため別の一群とも考えられるが、後者の堅穴建物と同様に標高の高い傾斜地2に立地し、堅穴建物との重複もなく構築される状況から後者の群の一部と考えられる。

土器埋設遺構 土器埋設遺構は中葉と後葉のものを各1基ずつ確認した⁷⁾。センター発掘区では土器埋設遺構は図379上図のとおり、中央より東側の傾斜地2にSJ1、SJ2が立地する。SJ1は前期中葉の有尾式の深鉢、SJ2は前期後葉の諸磯a式の深鉢を埋設する。土器埋設遺構の用途は不明であるが、関東地域においては前期中葉黒浜式以降に導入されたとされ、前期後半の土器埋設遺構を確認した遺跡の地理的分布は、岐阜県東濃地域・愛知県三河地域・長野県木曾地域にまとまりがあることから⁸⁾、本遺跡で確認した土器埋設遺構は、これらの地域との関わりを窺わせる。

土坑墓 土坑墓は後葉のものを確認した⁹⁾。センター発掘区では図379のとおり、土坑墓は東部の堅穴建物（SI9・11など）よりも西側で確認されている。立地をみると、土坑墓は傾斜地2に多いが、傾斜2よりも急傾斜の傾斜地1・3にも存在する。土坑墓の時期は、細別時期を決定できる北白川下層IIc式段階の土器がまとめて出土したST5・16・17・23・38・42について北白川下層IIc式段

階のものと考えられる。この他、北白川下層IIc式段階の土器を含まないST3・4が北白川下層Iib式段階、これら以外の北白川下層IIc式段階以降の土器を含まない土坑墓が北白川下層IIc式段階の土坑墓と考えられる。時期別の分布をみると、北白川下層Iib式段階の土坑墓はセンター発掘区の中央部や東寄りの傾斜地2に立地する。北白川下層IIc式段階の土坑墓は、北白川下層Iib式段階の土坑墓よりも西側に広く立地することから、竪穴建物と同様に北白川下層IIc式段階にセンター発掘区東部から西部へ広がったと考えられる。

前期中葉～後葉（北白川下層Iib式期以前）



前期後葉（北白川下層IIc式期）



- 竪穴建物 黒の数字は竪穴建物の番号を示す
- 土坑墓 青の数字は土坑墓の番号を示す
- 集石土坑 赤の数字は集石土坑の番号を示す

図379 前期の主な遺構

集石土坑 集石土坑は後葉のものを確認した¹⁰⁾。センター発掘区では、集石土坑は東部の堅穴建物(SI 9・11など)よりも西側に16基分布する。集石遺構の詳細時期は出土土器からすべて北白川下層II c式段階と考えられる。立地をみると、集石土坑は標高591m以下の傾斜地2に分布する。このうち、焼穢を含むものは6例(SK 8・88・165・210・491・673)ある。被熱穢を伴う土坑の用途は屋外調理施設の他に葬送儀礼に関わる施設¹¹⁾と考えられており、堅穴建物や土坑墓に近い場所に位置する当該期の集落の在り方を示す資料と言える。

遺構の分布について 最後に集落での各遺構の配置について検討する。堅穴建物は、北白川下層II b式段階では標高591m以下の傾斜地2・3に構築されていたが、北白川下層II c式段階になると北白川下層II b式段階と同様の概ね標高591m以下の傾斜地2・3に構築される堅穴建物以外に、前者よりも標高の高い高山市発掘区を含む傾斜地2に構築される堅穴建物が分布するようになる。急傾斜である傾斜地3に堅穴建物が結果的に重複するように構築される理由は日照条件の良い南向きである他に、平場よりも傾斜地の方が堅穴を掘る労力が軽減される利点がある¹²⁾ことが挙げられる。土坑墓は傾斜地2に多く堅穴建物との重複もあり、堅穴建物群の内側に環状に配置されるというよりは堅穴建物に近い位置に配置されたと考えられる。集石土坑は傾斜地2・3に多く、センター発掘区東部に集中する。集石土坑の用途が屋外調理施設である場合は、複数回使用した穢の管理を含め、一定の場所に配置する意図があるのかもしれない。以上のように集落内に堅穴建物・土坑墓があるものの、堅穴建物群と土坑墓群の分布が一部重なり合うことやセンター発掘区南部の堅穴建物群は列状に配置されることから、環状構造を示す集落にはならないと考えられる。

②遺物について

センター発掘区の遺構及び表土・包含層から出土した細別時期が特定できる接合前の土器の点数を集計し、その多寡を5段階に分け、色分けし図380に示した。前葉～中葉の土器はセンター発掘区東部を中心に南部や北部で出土し、特にAF16・AH18グリッドの出土数が多い。出土土器の分布は当該期の遺構の分布(図379上図)と重なる部分もあるが、センター発掘区のAB9・AJ6・AK5・AK7・AK8グリッドなど遺構の分布よりも広い範囲で出土するため、後葉や中期の遺構により当該期の遺構が消滅した可能性がある。後葉の土器はセンター発掘区全体から出土し、AG16・AH15～17・AI14・AI16・AI17・AJ7・AJ14～17・AK9・AK13グリッドで101点以上と出土数が多い。101点以上出土したグリッドは堅穴建物の多い場所と重なる。AG14～AI16グリッドは土坑墓や土坑が多い場所と重なる。一方、AF8～AF11グリッドやAG9～AG11グリッドなどの出土ではなく、周辺グリッドでの出土数も少ない。

次に当遺跡で出土した前期後葉の石器組成と石器の特徴について、周辺遺跡の石器組成と比較し、検討する。なお、当遺跡の石器点数は、高山市発掘区の遺構出土石器点数にセンター発掘区の遺構出土石器点数を加えた数量を用いた。対象器種は16器種で、小林康男氏¹³⁾や長澤有史氏¹⁴⁾の論考を参考に、石器器種を機能・用途別に狩猟具(石鏃、尖頭器)、漁労具(石錘)、植物質食糧獲得・加工工具A(打製石斧)、植物質食糧獲得・加工工具B(磨石・敲石類、石皿・台石類、砥石)・伐採具(磨製石斧)・加工工具(石匙、石錐、スクレイバー、R F、MF)、その他(剥片類、石核、楔形石器)に分け、狩猟具・漁労具・植物質食糧獲得・加工工具を石器組成の対象器種として検討した。なお、抽出した遺跡は、時期の特定できる堅穴建物を確認した飛騨地域の遺跡とした。ただし、早期中葉と早期後葉～前期初頭の石器組成については堅穴建物出土の石器点数が少ないとから時期の特定できる

遺構の石器数を利用した。

はじめに西田遺跡¹⁵⁾・堂之上遺跡¹⁶⁾の出土石器をもとに飛騨地域における早期中葉～前期中葉の遺跡の石器組成を比較する(表124)。早期中葉では植物質食糧獲得・加工工具Bの割合が多く、これに狩猟工具が少量伴う。この時期の磨石・敲石類に特殊磨石が見られるようになる。早期後葉になると、狩猟工具の割合が若干増加する。前期中葉には、漁労工具の石錐と植物質食糧獲得・加工工具Bの砥石、伐採工具の磨製石斧、加工工具の石匙が器種として加わる。石器組成は狩猟工具の割合が増加し、植物質食糧獲得・加工工具Bの割合が減少する。この時期の磨石・敲石類に両側刃に平坦面を持つ所謂石鎌形のものが見られるようになる。

次に飛騨地域における前期後葉の遺跡の石器組成を比較する(表125)。村山遺跡¹⁷⁾は狩猟工具の次に漁労工具、向畠遺跡¹⁸⁾・堂之上遺跡¹⁹⁾・島中通遺跡²⁰⁾は狩猟工具の次に植物質食糧獲得・加工工具Bの割合が高い。村山遺跡は宮川左岸沿いの低位段丘面上に立地する。背後には山々が広がり、段丘下は

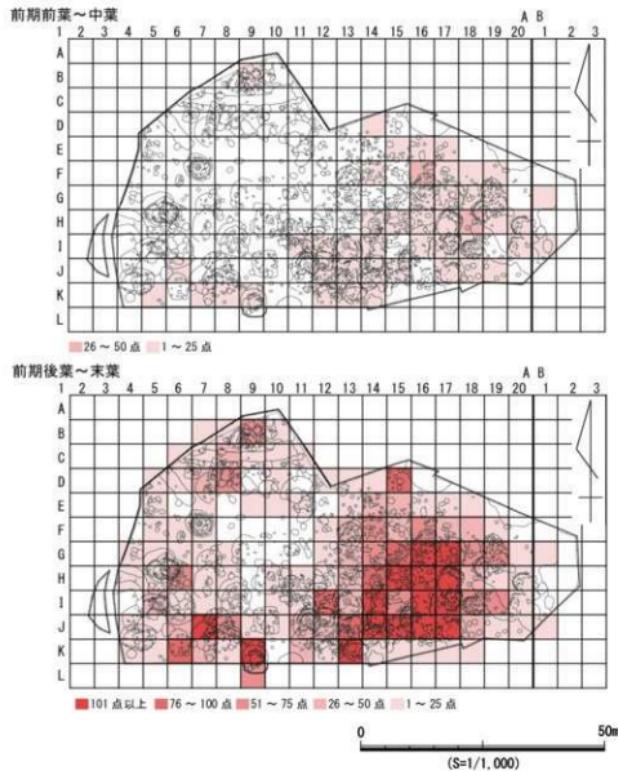


図380 縄文土器の時期別出土分布図

川幅の広い本流が流れる。県内の遺跡でも坂祝町芦戸遺跡²¹⁾や岐阜市御望遺跡²²⁾や揖斐川町上原遺跡第一地点²³⁾など川沿いの遺跡は石錘の割合が高い傾向にあるため、村山遺跡において漁労具の割合が高いのは近場の河川資源を積極的に獲得した結果と考えられる。一方、向畠遺跡は宮川の支流江名子川に張り出す丘陵の中位面上、堂の上遺跡は飛騨川の支流八尺川が本流との合流域に向かって張り出す舌状台地上、島中通遺跡は莊川右岸の中位段丘面上にあり、村山遺跡に比べ高位で、川幅の広い本流とは離れた場所に立地する。向畠遺跡・堂之上遺跡・島中通遺跡において狩猟具や植物質食糧獲得・加工具Bの割合が高いのは、食糧を背後の山々に求めた結果と考えられる。このように生業活動の比重は遺跡により異なることから遺跡の立地環境に影響を受けている可能性があると言える。

当遺跡は宮川左岸の丘陵南東斜面上で位置し、村山遺跡よりも高位で本流から離れた場所に立地する。石器組成は、同時期の遺跡と比較すると、狩獵具の割合が低く、植物質食糧獲得・加工具Bの割合が多い。その要因として、他の遺跡で出土することが少ない特殊磨石に似た長楕円礫の側面に敲打痕や磨痕を残す磨石・敲石類が多いことが挙げられる。当遺跡では、このタイプの石器は磨石・敲石類の出土点数 600 点中 229 点 (38.2%) と高い割合を占める。石器の側面に形成された磨面は、敲打作業を繰り返すことで敲打痕が潰れ、結果として磨面が形成されたと考えられる。当遺跡では根菜類の獲得具である打製石斧の割合が少ないとから、この石器は主に堅果類の粉碎作業に使用されたと考えられる。のことから、当遺跡で敲石・磨石類の割合が高いのは、背後の山々に堅果類などの植物質の食糧資源を求めて、積極的に獲得した結果と考えられる。

表 124 各遺跡の早期中葉から前期中葉の石器出土点数とその比率

表 125 各遺跡の前期後葉の石器出土点数とその比率

(3) 中期

①遺構について

中期の遺構は高山区発掘区では単独柱穴1基が確認されている。センター発掘区では西部に多く、標高586m以上の傾斜地1・2を中心立地する。センター発掘区では竪穴建物20軒、土坑墓12基、土器埋設遺構1基のほか、土坑89基や単独柱穴7基を確認した。センター発掘区の細分時期を認定できた竪穴建物、土坑墓を図382に示した。以下、時期毎の竪穴建物の特徴と各遺構の分布状況を確認し、集落内の配置を検討する。

竪穴建物 竪穴建物は前葉～後葉のものを20軒確認した。前葉の竪穴建物は3軒(SI46・50・51)である。遺構の重複関係からSI50はSI51より古く位置付けられる。炉は3軒ともに地床炉である。当遺跡では、前期後葉～末葉の段階で高山区発掘区のSB15やセンター発掘区のSI15で、石囲炉を確認したが、高山区堂之上遺跡²⁰⁾の中期初頭の25号住居跡や高山区ツルネ遺跡²¹⁾の中期中葉の2号住居跡は地床炉であることから、地床炉と石囲炉が共存する時期があると考えられる。主柱穴は4本柱で平面方形の四隅に配置されると考えられ、入口土坑や対ビットは確認できなかった。

中葉の竪穴建物は7軒(SI26・29・32～35・48)確認した。SI48では比較的小振りな礫を用い石囲いの内側の形状が多角形となる石囲炉(以下、「石囲炉A」という。)と、SI32・35では比較的大きな礫を用い石囲いの内側の形状が方形となる石囲炉(以下、「石囲炉B」という。)を確認した。主柱穴はSI29・32・35・48が4本柱、SI26が5本柱である。また、SI32で入口土坑、SI35で入口土坑と対ビットを確認したが埋甕は確認できなかった。

後葉の竪穴建物は10軒(SI18～20・25・27・37～39・41・52)確認した。SI52は石囲炉A、これ以外は石囲炉Bであった。主柱穴はSI20・39が不明以外、4本柱で平面方形の四隅に配置されると考えられる。SI18・19・25・41で入口の対ビット、SI20・37～39以外で入口土坑を確認したが、埋甕は確認できなかった。

土坑墓 土坑墓は前葉～後葉のものを12基確認した。内訳は前葉1基(ST14)、中葉4基(ST13・19・43・46)、後葉3基(ST32・34・37)、詳細時期不明4基(ST22・24・35・40)である。前葉は傾斜地2、中葉は傾斜地1・2、後葉は傾斜地1に立地する。

遺構の分布について 次に集落での各遺構の配置について検討する。図382に各時期の竪穴建物と土坑墓の位置を図示した。また、石囲炉や入口土坑から竪穴建物の出入口が明確なものは矢印で示した。

前葉では地床炉をもつ竪穴建物がセンター発掘区西部南寄りの標高590m前後の傾斜地2と3の境付近に3軒(SI46・50・51)、土坑墓は竪穴建物と離れた東部の傾斜地2に1基(ST14)分布する。ST14付近は出土遺物も少なく、竪穴建物との関係性は不明である。

中葉になると、石囲炉Aをもつ竪穴建物(SI48)がセンター発掘区中央部南寄りの標高590m前後の傾斜地2と3の境付近に分布し、これとは別に石囲炉Bをもつ竪穴建物(SI32・35)やSI26・29がセンター発掘区西部の標高593m～596mにかけての傾斜地1に分布する。これが、どのような性格の違いに起因しているかは不明である。土坑墓はST19が傾斜地1に立地する以外、SI48周辺の傾斜地2に分布し、竪穴建物と同様に2つのブロックに分かれる。同時共存であればそれぞれの竪穴建物のブロックに属する可能性が高い。

後葉になると、中葉に引き続き、石囲炉Aをもつ竪穴建物(SI52)がセンター発掘区中央南西寄り

の標高 591～592m の傾斜地 2 に、センター発掘区西部の傾斜地 1 に石圍炉 B をもつ竪穴建物 (SI25・27・41) が分布するが、新たにセンター発掘区南部の傾斜地 2 と 3 の境付近に石围炉 B をもつ竪穴建物 (SI18～20) が分布する。また、SI52 に近い位置に炉や入口土坑を持たない竪穴建物 (SI37～39) が分布するが、どのような性格の違いに起因しているかは不明である。土坑墓はセンター発掘区西部南寄りの SI52 と SI41 の間に分布する。

以上のように中期の遺構の分布は前期後葉の遺構の分布と比べ、竪穴建物や土坑墓の分布範囲も狭くなり、竪穴建物と土坑墓の分布はブロック単位に配置されることから、高山市垣内遺跡のような環状構造を示す集落ではなく、高山市赤保木遺跡²⁶⁾ や戸田哲也氏が指摘する高山市岩垣内遺跡や飛騨市中野山越遺跡のような地形に合わせた集落²⁷⁾ であったと考えられる。

②遺物について

センター発掘区の遺構及び表土・包含層から出土した細別時期が特定できる接合前の土器の点数を集計し、その多寡を 5 段階に分け、色分けし図 383 に示した。前葉の土器は AJ7 グリッドの出土数が多い。AJ4～AK5・AJ7～AK8 グリッドなど竪穴建物の分布（図 382 上段）と重なる。遺構を確認できなかつた AB8・AC9・AC10 グリッドの出土は大きな溝状の攪乱が多数あるため、これらの影響により当該期の遺構が消滅した可能性もある。中葉はセンター発掘区西部を中心に広く出土し、AD7 グリッド・AH6 グリッド・AJ11 グリッドの出土数が多い。AD7～9・AF6・AF7・AG5～AH6・AI11～AJ12 グリッドなど竪穴建物の分布（図 382 中段）と重なる。後葉は AJ11 グリッドの出土数が多い。AD7・AD



図 381 中期の遺構

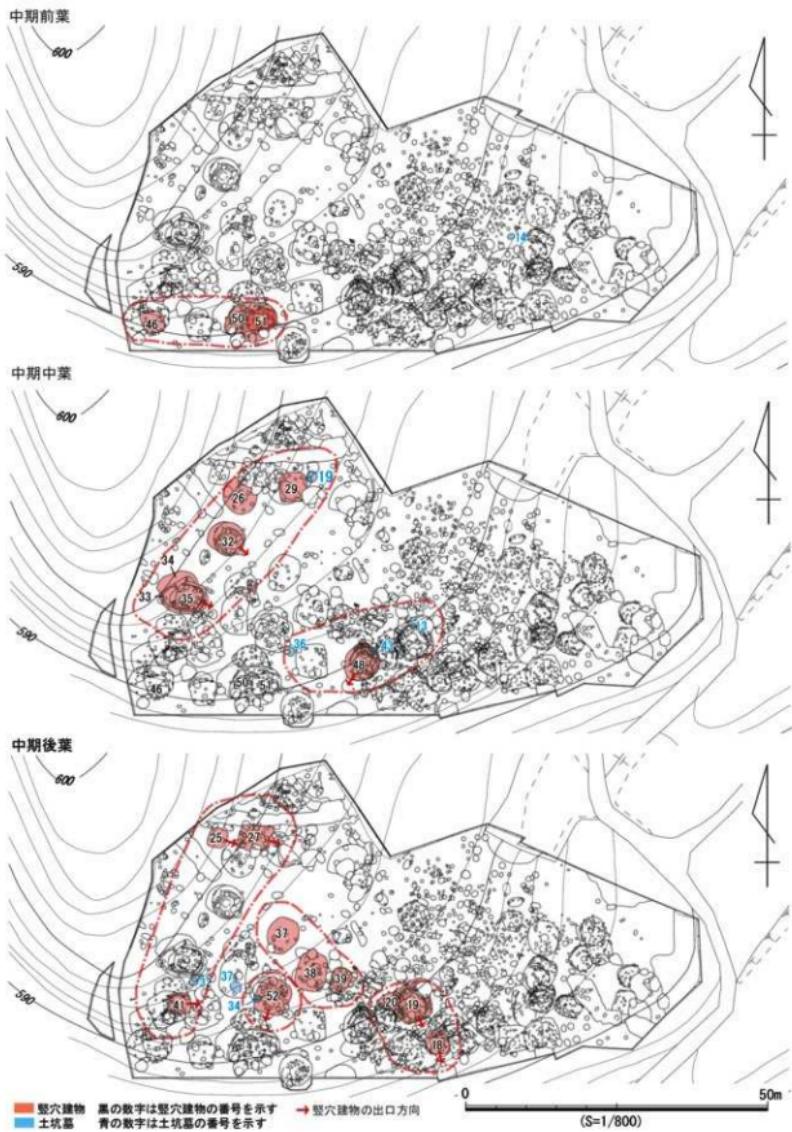


図 382 中期の主な遺構

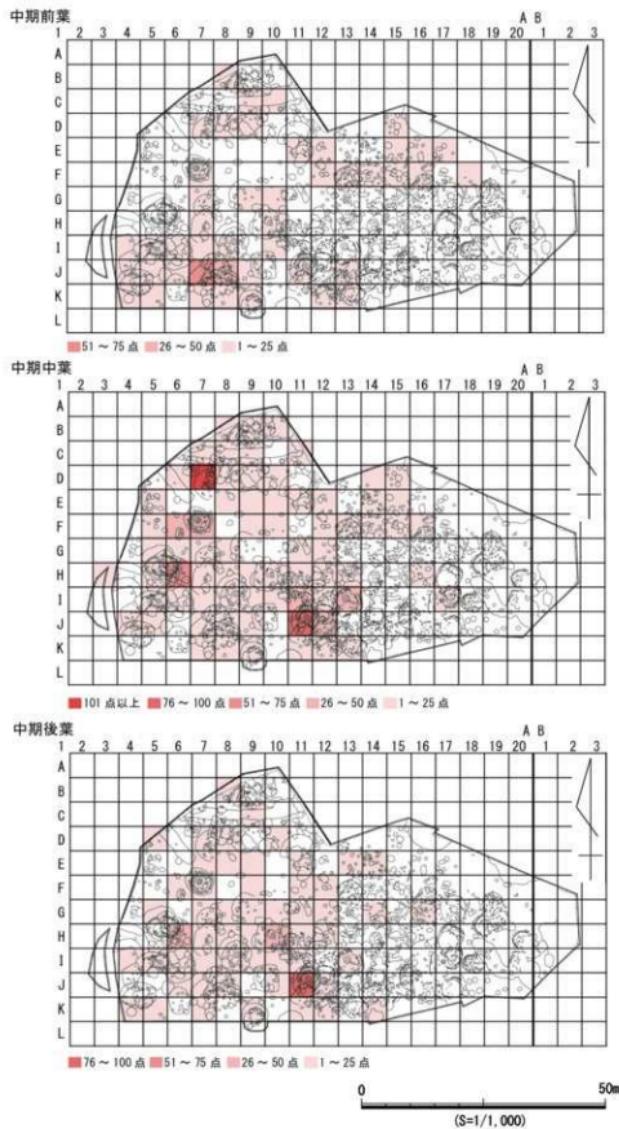


図 383 縄文土器の時期別出土分布図

8・AF9・AG8・AG9・AH8～AI11・AI13グリッドなど堅穴建物の分布（図382下段）と重なる。次に当遺跡で出土した中期の石器組成と石器の特徴について、周辺遺跡の石器組成と比較し、検討する。なお、当遺跡の石器点数は（2）②と同様の方法で集計し、各遺跡の石器点数は、堅穴建物から出土した石器の数量²⁹を用いた。

当遺跡の石器組成は前葉では狩猟具や植物質食糧獲得・加工工具Bが高い割合を示す(表126)。中葉以降、当遺跡は狩猟具の割合が減少し、植物質食糧獲得・加工工具Aの割合は徐々に高くなり、植物質食糧獲得・加工工具B、植物質食糧獲得・加工工具Aの順に高い割合を示すようになる。堂之上遺跡は初頭では狩猟具や植物質食糧獲得・加工工具Bが高い割合を示すが、中葉では植物質食糧獲得・加工工具Aの割合が増加し、後葉以降、植物質食糧獲得・加工工具Aの割合が増加する。赤保木遺跡は植物質食糧獲得・加工工具B、狩猟具、植物質食糧獲得・加工工具Aの順に高い割合を示す。上岩野遺跡は中期中葉では狩猟具が高い割合を示すが、中期後葉では植物質食糧獲得・加工工具Aの割合が増加する。塙内遺跡では集落開始期の中葉から植物質食糧獲得・加工工具Aは高い割合を示す。

表 126 各遺跡の中期から後期の石器出土点数とその比率

以上のように中期の遺跡の石器組成は前期の遺跡の石器組成（表125）と比べ、植物質食糧獲得・加工工具Aが一定量の割合でみられるようになる。また、中葉から後葉にかけて植物質食糧獲得・加工工具Aの割合が増加する傾向があり、根茎類の利用が高かったと考えられる。特に上岩野遺跡や垣内遺跡は、当遺跡や堂之上遺跡・赤保木遺跡に比べ植物質食糧獲得・加工工具Aは高い割合を示し、中期後葉以降、打製石斧の出土点数が磨石・敲石類の出土点数に拮抗するか上回る。長屋幸二氏によれば、飛驒地域は中期後半になると、打製石斧がほとんどの遺跡で出土するようになり、東濃・奥三河と比べ磨石・敲石類が多く出土する点に大きな違いがあると指摘している。また、この違いについて、磨石・敲石類が灰汁や有害成分や鐵維をとり除き澱粉を抽出する必要がある根茎類（クズ・ワラビ・カタクリ・ウバユリ）に叩き潰しに用いられた可能性を言及している²⁹⁾。上岩野遺跡は牧谷川右岸の段丘地及び丘陵の緩斜面に立地しているが、背後に緩やかで広大な傾斜地、東側に段丘面が広がる。垣内遺跡においても「上野平」と呼ばれる広大な大地の平坦面に立地しており、積極的に根茎類採集を生業に取り入れたと考えられる。

一方、当遺跡や堂之上遺跡・赤保木遺跡は中期に集落が終焉を迎えるが、上岩野遺跡や垣内遺跡では後期まで集落が存続することを踏まえると、飛驒地域の縄文時代の集落は、中期中葉から後葉にかけて根茎類などの食糧資源を生業として積極的に行うようになり、後期以降、集落の立地も根茎類などの食糧資源を獲得しやすい平坦地や丘陵に変化していったと考えられる。

注

- 1) 高山市が実施した中切上野遺跡の発掘調査報告書では、高山市発掘区の北西部は、両側の尾根が挟まってできた扇頂部にあり、高山市発掘区東部よりも急傾斜とされている。

高山市教育委員会 1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』の49頁

- 2) 高山市が実施した中切上野遺跡の発掘調査報告書では、焼継遺構は遺構周辺で早期の遺物が出土したことや遺構の形態から早期の遺構と判断している。

高山市教育委員会 1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』

- 3) 高山市発掘区では、竪穴建物の柱配置や貯蔵穴が不明なものが多いため、センター発掘区の竪穴建物のみを図示した。

- 4) 平岡遺跡の報告書の中で、平岡遺跡や吉峰遺跡の各建物に貯蔵穴が伴う構造は、当地域の特色の一つとしている。また、大石崇史氏は飛驒地域においても竪穴建物に伴う大型の土坑が多く見つかっており、これらは貯蔵穴の可能性があることを指摘している。この他、建物に貯蔵穴が伴う事例は、東濃地域では中津川市落合五郎遺跡、愛知県の山間部では設楽郡ヒロノ遺跡がある。

金三津道子 2015「第IV章総括 1 平岡遺跡の集落構造」『平岡遺跡』の325~326頁、公益財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所

大石崇史 2016「第1節 縄文時代前期ってどんな時代」『高山市史 先史時代から古代編（上）』の119頁、高山市教育委員会

河野典夫「第4章 遺構」『落合五郎遺跡』中津川市教育委員会

増子康眞 2001「愛知県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』、縄文文化研究会

- 5) 竪穴建物同士の重複はSI 1 > SI 2 > SI 3、SI 11 > SI 9 > SI 8、SI 11 > SI 9 > SI 13、SI 12 > SI 14 > SI 13、SI 28 > SI 23 > SI 22 の5箇所ある。

- 6) 馬場伸一郎氏は、以下の文献で2-1期とした諸磧b式中段階の堅穴建物のSB13を北白川下層IIc式新段階としている。本書では馬場氏の土器編年対応表を参考に、北白川下層IIa式を諸磧a式古段階、北白川下層IIb式を諸磧a式新段階、北白川下層IIc式を諸磧b・c式に対応させ、説明する。
- 馬場伸一郎 2012『繩文時代前期後半飛驒を中心とした地域間交流』『繩文・峰一合遺跡の再検討』の10頁表1、下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館
- 7) 高山市発掘区では、センター発掘区で行った土坑の詳細な分類が行われておらず、明確な記載がないため、以下の分析から除外した。
- 8) 長田友也 2011『第3節 水汲遺跡の位置づけ B. 墓設土器』『水汲遺跡』の244頁、豊田市教育委員会
- 長田友也氏 2012『東海地方における峰一合遺跡』『繩文・峰一合遺跡の再検討』の35頁、下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館
- 9) 高山市発掘区では、センター発掘区で行った土坑の詳細な分類が行われておらず、明確な記載がないため、以下の分析から除外した。ただし、前掲1)の報告書中106頁で高山市発掘区の土坑やピットは土坑墓や貯藏穴の可能性があるとされている。
- 10) 高山市発掘区では、センター発掘区で行った土坑の詳細な分類が行われておらず、明確な記載がないため、以下の分析から除外した。
- 11) 谷口康浩氏は被熱による用羅の変色・破碎が軽少かほとんど認められない施設の事例として長野県阿久遺跡の集石遺構を挙げ、特別な機会に際してのみ供用された一回性の強い一群として、儀礼的・形式的炊爨が行われた可能性を指摘している。
谷口康弘 1986『繩文時代「集石遺構」に関する試論』『東京考古4』、東京考古談話会
- 12) 下記の文献で、山際の傾斜地に中期の堅穴建物を築く理由について、深い堅穴を半分の労力で掘ることができることを挙げている。
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『上岩野遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第90集)の本文編190頁
- 13) 小林康男 1995『組成論』『繩文文化の研究7 道具と技術』、雄山閣出版株式会社
- 14) 長澤有史 2011『第2節水汲遺跡出土石器群の石器組成について』『水汲遺跡 第2・3・5・6次調査』、豊田市教育委員会
- 15) 下記の文献の第11表「遺構別石器一覧表」をもとに早期中葉の遺構と早期後葉～前期初頭の遺構で出土した石器点数を集計し、表中に示した。
久々野町教育委員会 1997『堂之上遺跡 繩文時代集落跡の調査記録』
- 16) 下記の文献の神之木式並行段階の堅穴建物5軒(7・13・17・18・40)、有尾式・黒浜式並行段階の堅穴建物2軒(7・43)で出土した石器点数を集計し、表中に示した。
財団法人岐阜文化財保護センター1997『西田遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第29集)
- 17) 下記の文献の堅穴建物1軒(立穴住居跡)で出土した石器点数を集計し、表中に示した。
塩屋雅夫・大野政雄 1960『村山遺跡』
- 18) 下記の文献の前期後葉の堅穴建物5軒(2・5・7・11・13)で出土した石器点数を集計し、表中に示した。
高山市教育委員会 1982『向畠遺跡発掘調査報告書』
- 19) 前掲注12)の文献の前期後葉の堅穴建物2軒(15・28)で出土した石器点数を集計し、表中に示した。
- 20) 島中通遺跡は遺構毎の石器出土点数は不明であるが、前期の単独時期の遺跡であることや下記の文献で石器の大部分が堅穴

- 建物の覆土から出土したと記載されていることから、遺構及び遺物包含層で出土した石器点数を表中に示した。
- 白川村教育委員会 1983『島中通道路発掘調査報告書』
- 21) 坂祝町教育委員会 1988『芦戸遺跡』
 - 22) 内堀信雄 1985『第4章 遺物1（石器）』『御望遺跡』（市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録），岐阜市教育委員会
 - 岐阜県文化財保護センター2020『御望A遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第144集）
 - 23) 岐阜県文化財保護センター2000『上原遺跡II』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第54集）
 - 24) 前掲注12の文献
 - 25) 高山市教育委員会 1978『ツルネ遺跡』
 - 26) 下記の文献の総括では、遺跡全体の様相をほぼすべて把握できたという理由から、赤保木遺跡は遺跡の中央に広場や土坑群を配する大規模な集落跡ではないことを確定できたと述べている。
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター『赤保木野遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第105集）
 - 27) 戸田哲也氏は下記の文献で、岩垣内遺跡の中期後葉の堅穴建物群を抽出し固形化し、斜面地の崖線に並行して列状分布になること、中野山越遺跡は中期中～後葉は傾斜に合わせて帯状分布になることを指摘している。
戸田哲也 2001「岐阜県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』、縄文文化研究会
 - 28) 堂之上遺跡は前掲注15) の文献で中期初頭の堅穴建物1軒(25)、中期中葉の堅穴建物7軒(22・30・33・35・36・37・41)、中期後葉の堅穴建物9軒(1・4・6・14・23・26・27・38・42)、中期末葉の堅穴建物16軒(2・3・5・8～10・12・16・19～21・24・29・32・34・39)で出土した石器点数をそれぞれ集計し、表中に示した。
 - 赤保木遺跡については遺構毎の出土点数が不明であるため、前掲注23) の文献で遺構及び遺物包含層の出土した石器点数を集計し、表中に示した。
 - 上岩野遺跡は前掲注12) の文献で中期中葉の堅穴建物3軒(12・17・44)、中期後葉の堅穴建物52軒(1～3・5～7・9・10・15・16・18～21・24・26～33・35～39・41～43・45・48～52・54・55・57・59～61・64・68～70・72・74・76～78)、後期前葉の堅穴建物15軒(8・13・14・22・23・25・34・40・46・56・58・62・63・67・75)で出土した石器点数をそれぞれ集計し、表中に示した。
 - 垣内遺跡は下記の文献で中期中葉の堅穴建物5軒(13・32)、中期後葉の堅穴建物7軒(4・6・15・18・21・35・50)、後期前葉の堅穴建物5軒(5・7・19・27・34)、後期中葉4軒(46・51・61・63)で出土した石器点数をそれぞれ集計し、表中に示した。
- 高山市教育委員会 1991『垣内遺跡発掘調査報告書』
- 29) 長屋幸二 2003「東海・関西地域における打製石斧の選択」『縄文時代の石器II—関西の縄文前期・中期』関西縄文研究会

第2節 中切上野5号古墳及び方形周溝墓（SZ1）について

今回の発掘調査では中切上野5号古墳及び方形周溝墓（以下、「SZ1」と記載する）を検出した（第3章第4節）。以下に、中切上野5号古墳とSZ1の属性を説明し、地域における歴史的意義づけについて検討する。

1 墳墓の規模・形態

飛驒地域（高山市・飛驒市・下呂市・白川村を含む範囲）では、上切寺尾古墳群¹⁾・中野大洞平遺跡²⁾・上町遺跡³⁾・ツルネ遺跡⁴⁾などで墳墓・周溝墓が確認されている。また、中切上野古墳群の中切上野1号古墳では当センターが令和元年度に発掘調査を実施し⁵⁾、墳丘盛土や周溝を確認した。今回の調査で確認した中切上野5号古墳でも墳丘盛土・周溝が残存しており、中切上野1号古墳と同様に、残存状況が良好な墳墓といえる。

中切上野5号古墳の方台部は、平面形が方形になるよう区画した構造をもつ。方台部の規模は、東西方向の規模が一辺約8mあり、中切上野1号古墳に隣接する場所で検出した方形周溝墓（SZ2）の規模に近い値を示す。周溝の西溝と傾斜地下方側の南溝が認められないことが方台部が立ち上がりが認められることから、削りだした状態になっている。SZ1方台部の平面形は、内周が直線に近い。方台部の規模は、内周規模が約7mであり、中切上野5号古墳や中切上野1号古墳に隣接する場所で発見した方形周溝墓（SZ2）の規模よりもやや小さい。上切寺尾古墳群では、斜面下方に周溝が認められない墳墓は丘陵の斜面に立地することから同様の特徴をもつ。

2 墳丘の構築と主体部について

中切上野5号古墳の墳丘盛土は、旧表土や基盤層に由来すると考えられ、周溝掘削により生じた排土を構築土として利用した可能性が高い。墳丘の構築方法は、周溝掘削により生じた排土を方台部の周縁に堤状の盛土を行った上でその内部を充填するもので、傾斜地上方に周溝を掘削しつつ、方台部内の傾斜地下方に盛土（6層～9層）を置き、最後に傾斜地下方の堤状の盛土（5層）の内側に盛土するという連続した工程を示している可能性がある。また、墳丘下の調査では北側の周溝と長軸が類似する掘り込み（SD2）を確認した。周溝よりも方台部側の墳丘盛土下で検出したことから墳丘構築当初に掘削された周溝の名残と考えられ、その後、中切上野5号古墳の規格が変更されたことに伴い埋め戻されたと考えられる。主体部は1基あり、長軸方位は墳墓の長軸方位と並行し、主体部の底面が旧表土まで達する。

SZ1の墳丘は確認できなかった。主体部は2基あり、長軸方位は墳墓の長軸方位とは合わない。

3 出土遺物

今回検出した中切上野5号古墳では縄文土器以外の土器が出土していないため、中切上野5号古墳の造営時期を特定できない。SZ1は周溝底面付近で土器が出土しており、溝が次第に埋没する段階の資料と考えられる。土器の器種は壺で、古墳時代初頭のものである。

4 中切上野古墳群について

今回の発掘調査で確認した中切上野5号古墳とSZ1は約50m離れている。発掘調査時において他には墳丘や周溝は確認できなかったことから、墳墓（周溝墓）の立地に空閑地が存在したと考えられる。

SZ 1は出土遺物から中切上野 1号古墳や中切上野 1号古墳に隣接する方形周溝墓（SZ 2）と同じ古墳時代初頭以降に構築されたと考えられるが、他の周溝墓・墳墓との周溝の重複は認められなかった。また、中切上野 5号古墳は出土遺物がなく時期が特定できないが、他の周溝墓・墳墓との周溝の重複は認められなかった。中切上野 1号古墳の調査時に確認した方形周溝墓（SZ 2）は、周溝同士の重複が認められたが、上切寺尾古墳群の尾根上に展開する墳墓のように周溝を共有しながら墳墓が並ぶのではなく、周溝の一部が重複したように見える。中切上野古墳群で検出した中切上野 1号古墳・中切上野 5号古墳・SZ 1・SZ 2は、上切寺尾古墳群の斜面下方に展開する墳墓のように、区画を共有するという意識は低く、傾斜を意識した向きで墳墓の方向が揃い、密度度は低いものと考えられる。

最後に中切上野古墳群が生み出された背景について考察する。中切上野古墳群から見下ろす位置には緩傾斜地があり、ここに中切日焼遺跡と中切遺跡が立地している。中切日焼遺跡は令和元年度に遺跡の一部で発掘調査したが、墳墓と対応する時期の集落跡は確認できなかつた⁶¹⁾。このため、当古墳

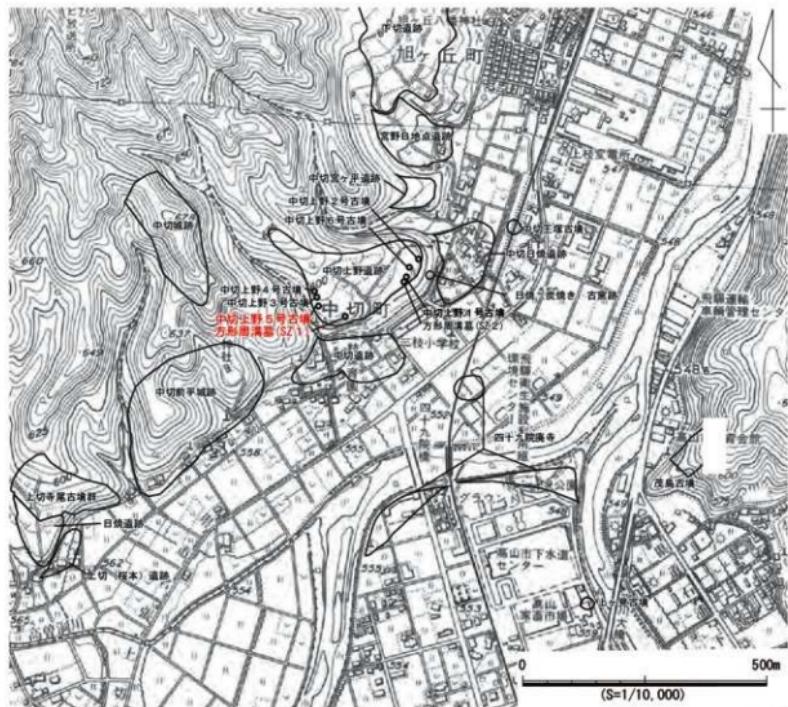


図 384 中切上野古墳群と周辺遺跡の立地

高山市役所発行1万分の1市街図 平成4年「高山市市街図其一」を使用。

群の造墓集団について現段階では不明である。上切寺尾古墳群に関しては、高曾洞川の谷を挟む離れた野内遺跡で弥生時代後期後半～古墳時代初めの集落⁷⁾が確認されていることから、造墓集団の居住域が隣接しないことも推定されている。一方、中切上野古墳群の周辺では、中切日焼遺跡で縄文時代晩期の土器や御物石器が採集されている⁸⁾ことや5世紀代の古墳である中切王塚古墳が築造されていることから、中切日焼遺跡から中切王塚古墳の間は比較的安定した土地と考えられる。そのため、令和元年度では確認できなかったが、居住城は中切日焼遺跡が立地する周辺の緩斜面にあった可能性を考えたい。今後は、飛騨地域における当時の集落と墳墓群の関係の明らかにすることが課題と思われる。

注

- 1)岐阜県文化財保護センター2020『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』
- 2)財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞魔寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『中野大洞平遺跡II』
- 3)古川町教育委員会 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』
- 4)高山市教育委員会 1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』
- 5)岐阜県文化財保護センター2020『中切上野1号古墳』
- 6)岐阜県文化財保護センター2020「3発掘調査・中切日焼遺跡」『令和元年度年報』
- 7)弥生時代後期は野内遺跡D地区で堅穴建物が1軒、弥生時代終末期は野内遺跡B地区で3軒、C地区で2軒、古墳時代初めは赤保木遺跡で2軒を確認した（時期区分は本報告に合わせて記載）。
- 岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『赤保木遺跡』
- 岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡B地区』
- 岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡D地区』
- 岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡C地区』
- 8)上枝村史編纂委員会 2000「第2章 第1節先史時代」『上枝村史』

第3節 土地利用の変遷について

今回の発掘調査では縄文時代から古代までの遺構・遺物を確認した。本稿では、平成8年度に高山市教育委員会によって行われた発掘調査の成果を含めて、各時代の土地利用の変遷について説明する。

縄文時代は本章第1節で示したとおり、早期後半は墓域、前期中葉から断続的に中期後葉にかけて居住城や墓城として利用される。

弥生時代から古墳時代は弥生時代中期中葉の土坑墓（ST15）、古墳時代初頭の中切上野5号古墳や方形周溝墓（SZ1）、古墳時代後期の鉄刀が出土した土坑墓（ST29）を確認したが集落に関連する遺構は検出されなかったことから、丘陵上は主に墓域として利用されたと考えられる。特に古墳時代初頭は、本節第2節で示したとおり、丘陵の尾根筋に墳墓群が形成されたと考えられる。

古代は高山市発掘区で7世紀末の堅穴建物（SB1）、センター発掘区で10～11世紀の土坑群を確認した。丘陵下の中切日焼遺跡¹⁾では、これらに近い時期の遺構を検出しており、この地に居住した人々が何らかの目的で丘陵上も利用した可能性がある。

注

1)岐阜県文化財保護センター2020「3発掘調査 中切日焼遺跡」『令和元年度年報』岐阜県文化財保護センター年報 20

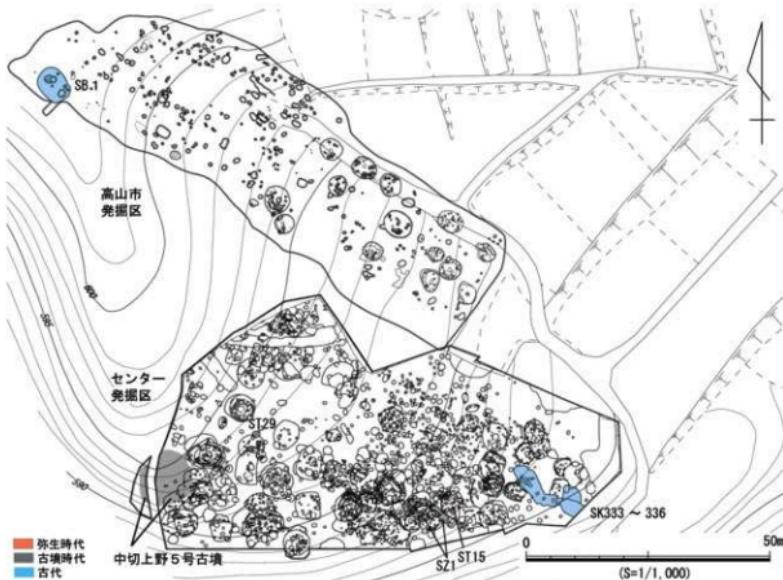


図385 弥生時代から古代の遺構

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』、愛知県
- 赤塚次郎 2005「第1章第3節 時期区分」『愛知県史 資料編3 考古3 古墳』、愛知県
- 我孫子昭二 1988『勝坂式土器様式』『縄文土器大観 第2巻 中期Ⅰ』、小学館
- 網谷克彦 1989「北白川下層式土器様式」『縄文土器大観 第1巻 草創期 早期 前期』、小学館
- 網谷克彦 1994「北白川下層式土器」『縄文文化の研究』3 縄文土器1、雄山閣
- 石川日出志 1995「飛驒の弥生中期横羽状文甕」『飛驒と考古学』、飛驒考古学会
- 泉拓良 2008『鷹島式・船元式・里木II式土器』『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 稻畑航平「山間部河川流域の集落景観－飛驒の縄文集落にみる「谷志向型」景観と「盆地志向型」景観』『東アジアの内海文化圏の景観史と環境 第1巻 水辺の多様性』、昭和堂
- 今福利恵 2008「勝坂式土器」『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 今村啓爾 1994「諸磯式土器」『縄文文化の研究』3 縄文土器1、雄山閣
- 岩田崇・大石崇史 2003『関西縄文時代の集落・墓地と生業』、六一書房
- 岩田崇 2009「飛驒における中期中葉から後葉にかけての様相」『飛驒地方における縄文時代中期中葉から後葉の諸様相』、東海縄文研究会
- 植田真 1988『貉沢式土器様式』『縄文土器大観 第2巻 中期Ⅰ』、小学館
- 上峰篤史 2018『縄文石器 その視角と方法』、京都大学出版会
- 上峰篤史 2020「縄文前期石器群の様相と論点」『三重県における縄文時代前期後葉の諸様相』、東海縄文研究会
- 内堀信雄 1985「第4章 遺物1（石器）」『御望遺跡』（市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録）、岐阜市教育委員会
- 大石崇史 2016「第1節 縄文時代前期ってどんな時代」『高山市史 先史時代から古代編（上）』、高山市教育委員会
- 長田友也 2011「第3節 水汲遺跡の位置づけ B.埋設土器」『水汲遺跡』、豊田市教育委員会
- 長田友也 2012「東海地方における峰一合遺跡」『縄文・峰一合遺跡の再検討』、下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館
- 加藤三千雄 2008「新保・新崎式土器」『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 金三津道子 2015「第IV章総括 1 平岡遺跡の集落構造」『平岡遺跡』、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 上条信彦 2007『なりわい 食糧生産の研究』、同成社
- 上条信彦 2015『縄文時代における脱穀・粉碎技術の研究』、六一書房
- 関西縄文文化研究会 2003『縄文時代の石器II－関西の縄文前期・中期』
- 関西縄文文化研究会 2003『縄文時代の石器III－関西の縄文後期・晚期』
- 岐阜県文化財保護センター2000『上原遺跡II』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第54集）
- 岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡C地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第122集）
- 岐阜県文化財保護センター2017『平成29年度中切上野遺跡現地見学会資料』
- 岐阜県文化財保護センター2018『平成30年度中切上野遺跡現地見学会資料』

- 岐阜県文化財保護センター2020『御望A遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第144集）
- 岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第154集）
- 岐阜県文化財保護センター2020「3発掘調査 中切日焼遺跡」『令和元年度年報』
- 岐阜県文化財保護センター2022『中切上野1号古墳』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第157集）
- 柳原功一 2008「曾利式土器」『総覧 繩文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 河野典夫 1988「第5章第1節 繩文土器」『落合五郎遺跡発掘調査報告書』、中津川市教育委員会
- 織嶺茂・高橋健太郎 2008「中富式・神明式土器」『総覧 繩文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 小杉康 1995「文化制度としての模倣製作」『飛彈と考古学 飛驒考古学会20周年記念誌』、飛驒考古学会
- 小林康男 1995「組成論」『繩文文化の研究7 道具と技術』、雄山閣出版株式会社
- 財団法人岐阜文化財保護センター1997『西田遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第29集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『上岩野遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第90集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第98集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『赤保木遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第105集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『中野大洞平遺跡II』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第107集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡D地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第108集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡B地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第111集）
- 坂祝町教育委員会 1988『芦戸遺跡』
- 佐藤亮太 2020「芦戸式の成立と展開」『地域考古学5号』
- 塩屋雅夫・大野政雄 1960『村山遺跡』
- 下平博行 2008「神ノ木式・有尾式土器」『総覧 繩文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 縄文セミナーの会 2010『縄文前期浅鉢土器の諸様相』
- 縄文セミナーの会 2016『縄文前期後半の型式間交渉の諸問題』
- 縄文セミナーの会 2017『縄文前期中葉の型式間交渉の諸問題』
- 白川村教育委員会 1983『島中通遺跡発掘調査報告書』
- 鈴木康二 2008「北白川下層式土器」『総覧 繩文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 関根慎二 2008「諸葛式土器」『総覧 繩文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 大工原豊・長田友也・建石徹 2020「縄文石器提要」、ニューサイエンス社
- 高橋浩二 2000「古墳出現期における越中の土器様相—弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年

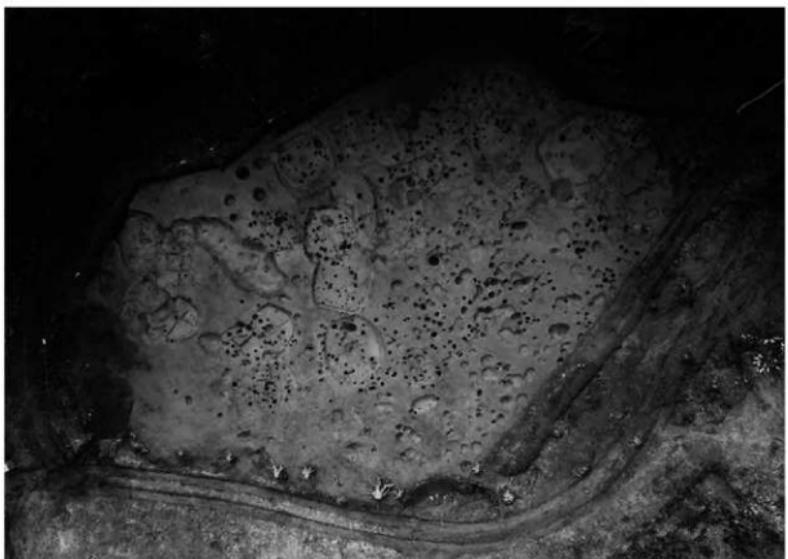
- 的位置付け』『庄内式土器研究』X X II、庄内式土器研究会
- 高山市教育委員会 1995 「1 赤保木 5 号古墳」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 2005 「4 赤保木 8 号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1978 『ツルネ遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1982 『向畠遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1991 『垣内遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1993 『前平山稜遺跡 赤保木遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1998 『中切上野遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 2001 「4 飛驒国分寺跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 谷口康浩 1989 「諸磲式土器様式」『縄文土器大観 第1巻 草創期 早期 前期』、小学館
- 谷口康浩 1986 「縄文時代「集石造構」に関する試論」『東京考古4』、東京考古談話会
- 東海縄文研究会 2014 『飛驒地域における縄文時代前期後葉の諸様相』
- 戸田哲也 1997 『堂之上遺跡 縄文時代集落跡の調査記録』、久々野町教育委員会
- 戸田哲也 2001 「岐阜県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』、縄文化研究会
- 戸田哲也・綿田弘実・前山精明 『シリーズ縄文集落の多様性III 生活・生業』「IV 北陸・中央高地の縄文集落の生活と生業」、雄山閣
- 豊島直博 2010 『鉄製武器の流通と初期国家形成』（奈良文化財研究所学報第83冊）、独立行政法人 国立文化財機関奈良文化財研究所
- 長澤有史 2011 「水汲遺跡出土石器群の石器組成について」第2節『水汲遺跡 第2・3・5・6次調査』、豊田市教育委員会
- 長屋幸二 2003 「東海・関西地域における打製石斧の選択」『縄文時代の石器II一関西の縄文前・中期』、関西縄文研究会
- 長谷川豊「飛驒における縄文時代中期後葉の堅穴建物址について」『飛彈と考古学 飛驒考古学会 20周年記念誌』、飛驒考古学会
- 長谷川豊「縄文時代中期後葉に建築された垣内型住居の再検討」『斐太紀』第27号、飛驒考古学会
- 馬場伸一郎 2012 「縄文時代前期後半飛驒を中心とした地域間交流」『縄文・峰一合遺跡の再検討』、下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館
- 古川町教育委員会 1991 『上町遺跡D地点発掘調査報告書』
- 上枝村史編纂委員会 2000 「第2章 第1節先史時代」『上枝村史』
- 堀沢祐一 2003 「富山県内の縄文時代堅穴住居について～前期から中期にかけて～」『富山県北押川C遺跡発掘調査報告書』、富山市教育委員会
- 末木健 1988 「曾利式土器様式」『縄文土器大観 第3巻 中期II』、小学館
- 増子康眞 1976 「名古屋市鳴海町鉢ノ木貝塚の研究—縄文前半の編年を中心として—」『古代人』第32号、名古屋考古学会
- 増子康眞 1976 「北白川下層IIa式・III式併行の東海地方西部の土器」『古代人』第32号、名古屋考古学会

- 増子康眞 1982 「北白川下層式土器の再検討」『考古学研究』第 29 卷第 1 号、考古学研究会
- 増子康眞 1996 「縄文前期後半・大麦多式土器の再検討—岐阜県御望遺跡・市場遺跡の再検討—」『古代人』第 57 号、名古屋考古学会
- 増子康眞 1997 「東海地方西部における縄文時代前期中葉土器群の成立過程」『縄文時代』第 8 号、縄文時代文化研究会
- 町田尚美 2013 「富山市平岡遺跡の掘立柱建物について—縄文時代前期後半の集落の様相」『富山县考古学研究第 16 号』、公益財団法人富山县文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 松田光太郎 2020 「縄文前期の広域土器編年とその展望」、六一書房
- 三上徹也 1988 「唐草文系土器様式」『縄文土器大観 第 3 卷 中期 II』、小学館
- 三島誠 2017 「飛騨地域における縄文時代前期中葉から後葉の堅穴建物について」『岐阜県文化財保護センター研究紀要』第 3 号
- 山下勝利 2008 「清水ノ上 II 式・上の坊式土器」『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 山下勝利 2008 「東海条痕文系土器」『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 吉川金利 2008 「唐草文系土器」『総覧 縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 渡邊博人 2008 「美濃須恵窯について」『日本考古学 2008 愛知県大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008 年度愛知大会実行委員会
- 渡辺誠・齐藤基生ほか 1985 「阿曾田遺跡発掘調査報告書—阿木川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—」、中津川教育委員会

図版 1 発掘区近景



平成 29 年度発掘区近景（北西から）



平成 29 年度発掘区近景（上が南）

図版 2 発掘区近景



平成 30 年度発掘区 第 1 調査面近景（東から）



平成 30 年度発掘区 第 1 調査面近景（上が西）

図版3 発掘区近景

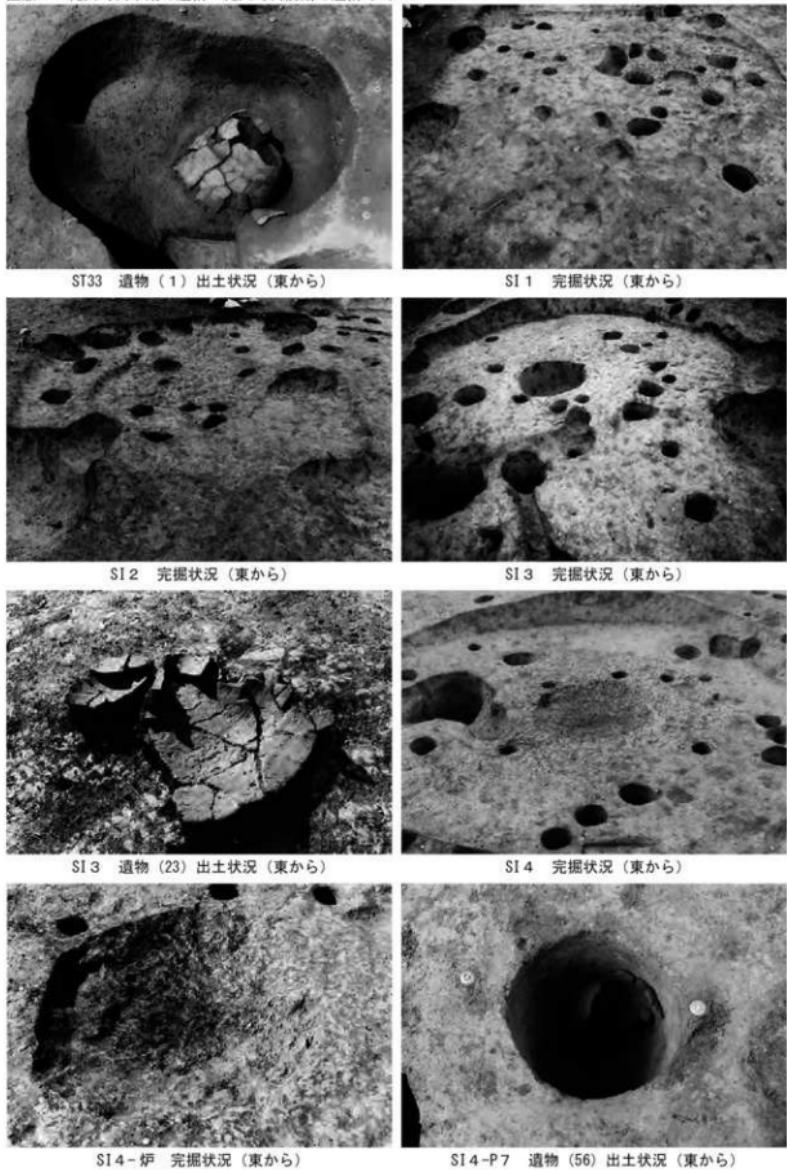


平成30年度発掘区 第2調査面近景（東から）

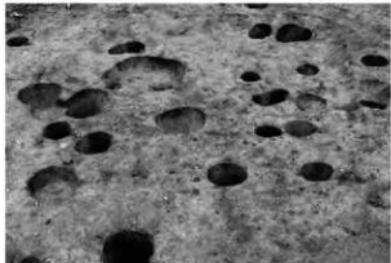


平成30年度発掘区 第2調査面近景（上が北）

図版4 繩文時代早期の遺構・縄文時代前期の遺構(1)



図版5 繩文時代前期の遺構(2)



SI5 完掘状況（東から）



SI6 完掘状況（東から）



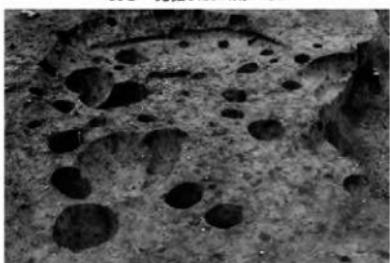
SI7 完掘状況（東から）



SI8 完掘状況（南から）



SI9 完掘状況（南から）



SI10 完掘状況（南東から）



SI10 遺物（124・125）出土状況（南から）



SI11 床面1核出遺構完掘状況（南から）

図版6 繩文時代前期の遺構(3)



SI11 床面2検出遺構完掘状況 (南から)



SI11 遺物(138・139)出土状況 (南から)



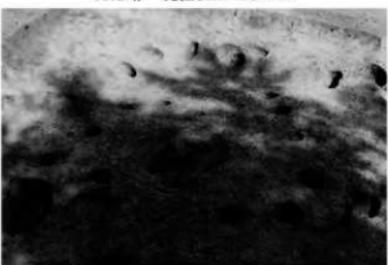
SI12 完掘状況 (東から)



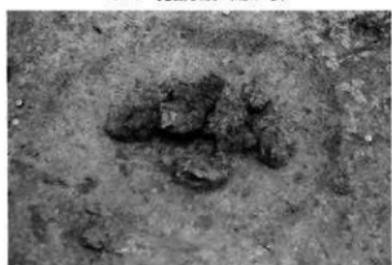
SI12-炉 完掘状況 (南から)



SI13 完掘状況 (北から)



SI14 完掘状況 (南から)

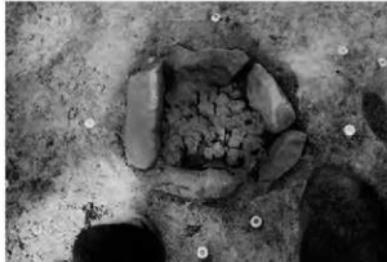


SI14-炉 焼土検出状況 (南から)

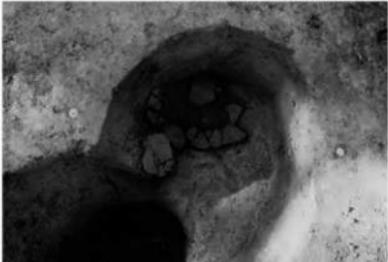


SI15 完掘状況 (南から)

図版7 縄文時代前期の遺構(4)



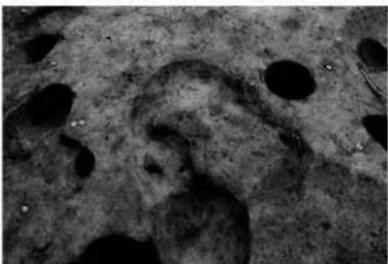
SI15-炉 烧土検出状況 (南から)



SI15-P48 遺物 (240・241・243) 出土状況 (南から)



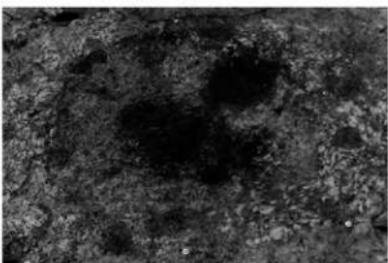
SI16 完掘状況 (南から)



SI16-炉 完掘状況 (南から)



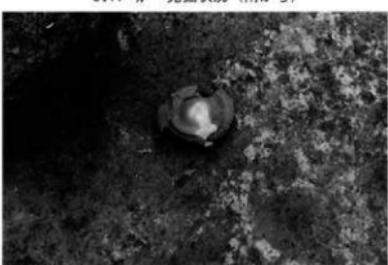
SI17 完掘状況 (南から)



SI17-炉 完掘状況 (南から)



SI17 遺物 (272) 出土状況 (西から)



SI17 遺物 (284) 出土状況 (東から)

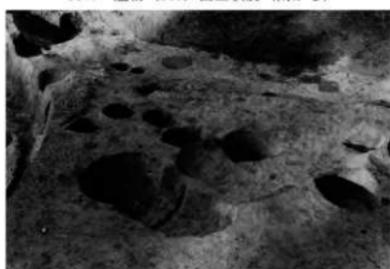
図版 8 縄文時代前期の遺構（5）



SI17 遺物 (300) 出土状況 (南から)



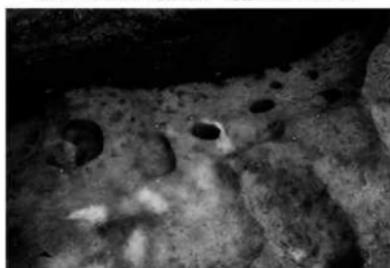
SI21 (平成 29 年度調査) 完掘状況 (東から)



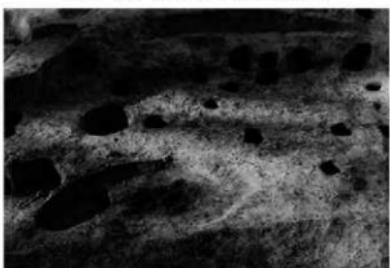
SI21 (平成 30 年度調査) 完掘状況 (南から)



SI21 遺物 (306) 出土状況 (東から)



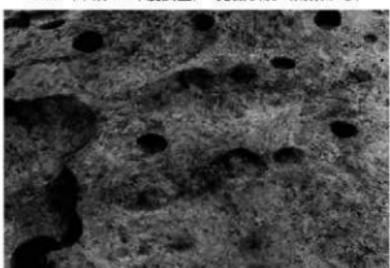
SI22 (平成 29 年度調査) 完掘状況 (北東から)



SI22 (平成 30 年度調査) 完掘状況 (南東から)



SI23 (平成 29 年度調査) 完掘状況 (北東から)



SI23 (平成 30 年度調査) 完掘状況 (南東から)

図版9 繩文時代前期の遺構（6）



SI24 完掘状況（南東から）



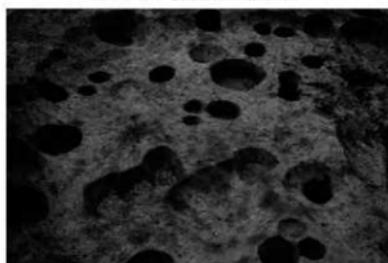
SI28 完掘状況（東から）



SI28-炉 検出状況（南から）



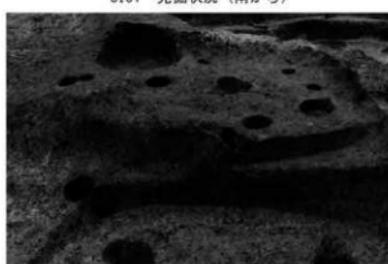
SI30 完掘状況（南から）



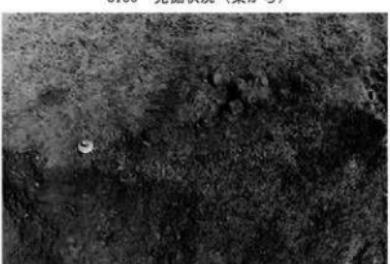
SI31 完掘状況（南から）



SI36 完掘状況（東から）

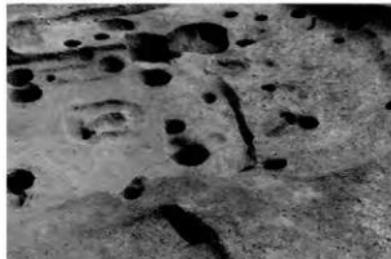


SI40 完掘状況（南から）

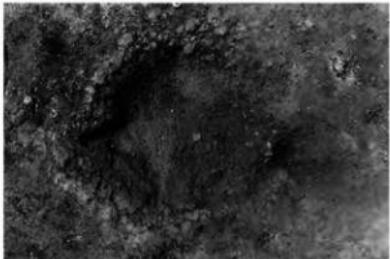


SI40-炉 検出状況（南から）

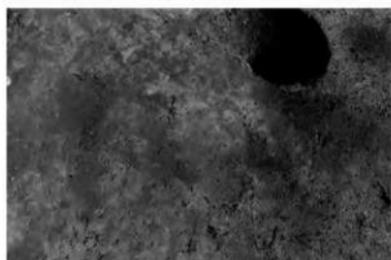
図版 10 縄文時代前期の遺構（7）



SI42 完掘状況（北から）



SI42-炉 1 完掘状況（東から）



SI42-炉 2 検出状況（西から）



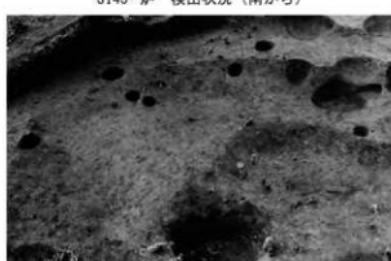
SI43 完掘状況（南から）



SI43-炉 検出状況（南から）



SI44 完掘状況（東から）

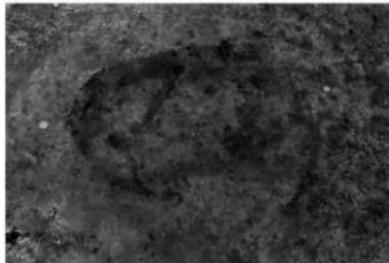


SI45 完掘状況（南東から）



SI47 完掘状況（南から）

図版 11 縄文時代前期の遺構（8）



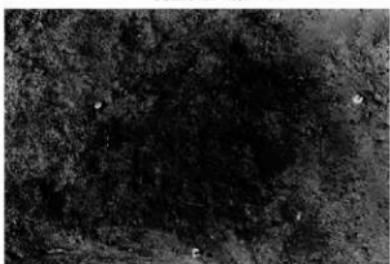
SI47-炉 完掘状況（南から）



SI49 完掘状況（東から）



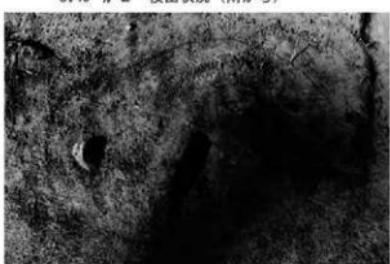
SI49-炉1 検出状況（南から）



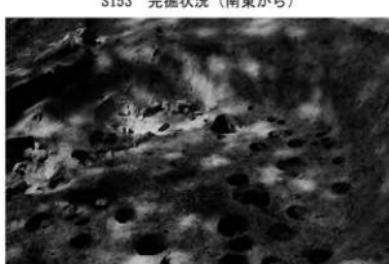
SI49-炉2 検出状況（南から）



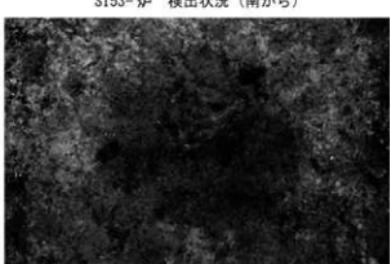
SI53 完掘状況（南東から）



SI53-炉 検出状況（南から）

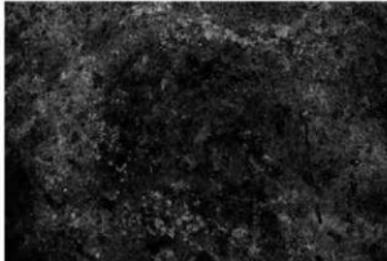


SI54 完掘状況（東から）



SI54-炉1 検出状況（南から）

図版 12 繩文時代前期の遺構（9）



SI54- 炉 2 梢出状況（南から）



SI54- 炉 3 梢出状況（南から）



SI54 遺物(414・415)出土状況（東から）



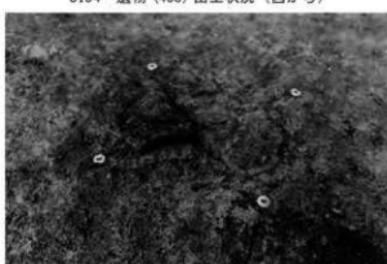
SI54 遺物(426)出土状況（西から）



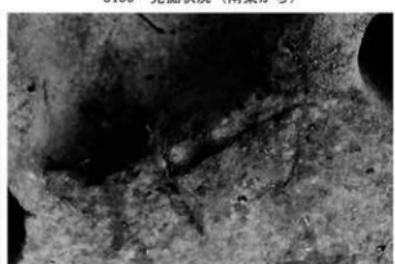
SI54 遺物(438)出土状況（西から）



SI55 完掘状況（南東から）

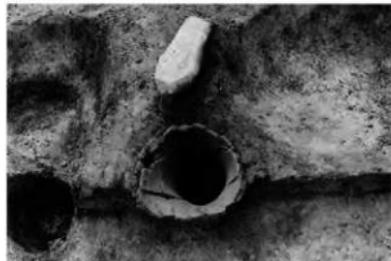


SI55- 炉 1 土層断面（北東から）

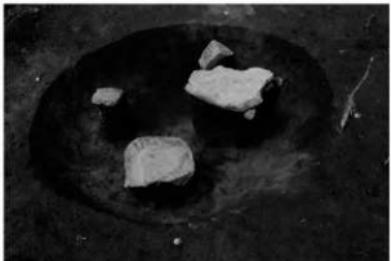


SI55- 炉 2 土層断面（北から）

図版 13 縄文時代前期の遺構 (10)



SJ2 遺物 (446) 出土状況 (北から)



ST3 稲出土状況 (東から)



ST5 遺物 (461) 出土状況 (東から)



ST6 稲出土状況 (東から)



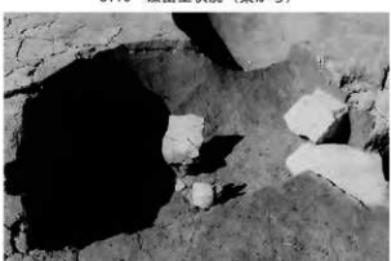
ST8 稲出土状況 (東から)



ST10 稲出土状況 (東から)



ST16 稲出土状況 (南から)



ST16 遺物 (447・479・480) 出土状況 (南から)

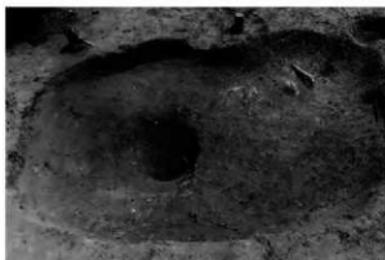
図版 14 縄文時代前期の遺構 (11)



ST17 遺物 (481・483) 出土状況 (南から)



ST18 遺物 (486・487・490・491) 出土状況 (北東から)



ST20 完掘状況 (北から)



ST21 遺物 (494～499) 出土状況 (東から)



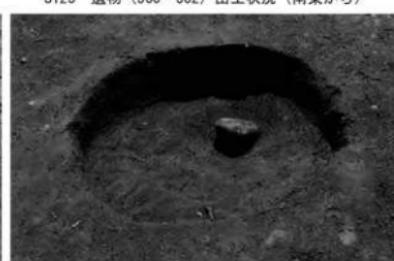
ST23 完掘状況 (南から)



ST23 遺物 (500・502) 出土状況 (南東から)



ST25 積出土状況 (南西から)

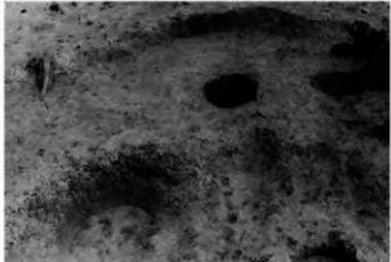


ST26 積出土状況 (東から)

図版 15 縄文時代前期の遺構 (12)



ST27 碓・遺物 (509) 出土状況 (南から)



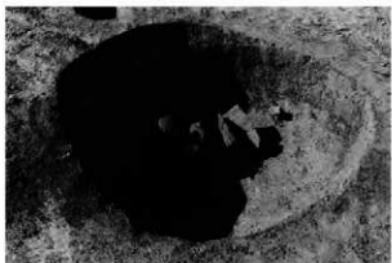
ST28 完掘状況 (南から)



ST30 碓出土状況 (西から)



ST31 完掘状況 (南東から)



ST38 遺物 (518・519) 出土状況 (南東から)



ST39 碓出土状況 (東から)



ST41 完掘状況 (南から)



ST41 遺物 (521) 出土状況 (北東から)

図版 16 繩文時代前期の遺構 (13)



ST42 完掘状況（南から）



ST42 遺物 (522 ~ 525・528) 出土状況（南東から）



ST44 土層断面（南東から）



ST45 磚・遺物 (534) 出土状況（南西から）



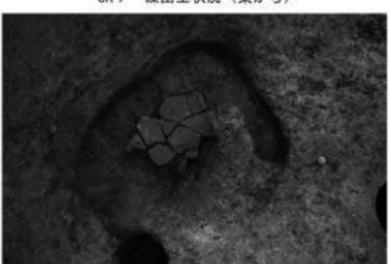
SK6 磚出土状況（西から）



SK7 磚出土状況（東から）



SK8 磚出土状況（北東から）



SK12 遺物 (555) 出土状況（北から）

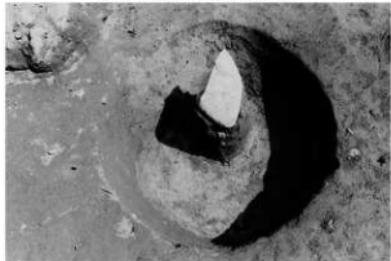
図版 17 縄文時代前期の遺構 (14)



SK18 碓出土状況（南から）



SK20 碓出土状況（南から）



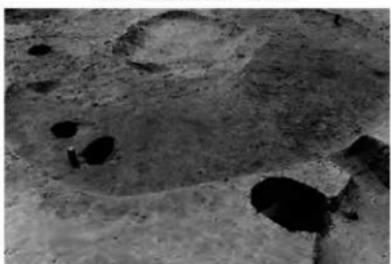
SK24 碓出土状況（南から）



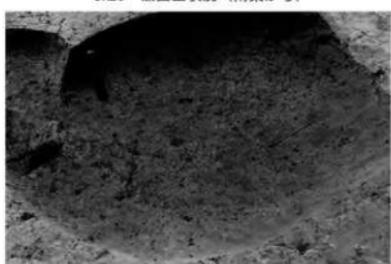
SK26 遺物出土状況（南から）



SK29 碓出土状況（南東から）



SK406 完掘状況（北西から）

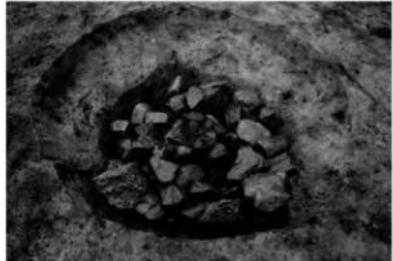


SK426 完掘状況（東から）



SK428 完掘状況（南東から）

図版 18 純文時代前期の遺構 (15)



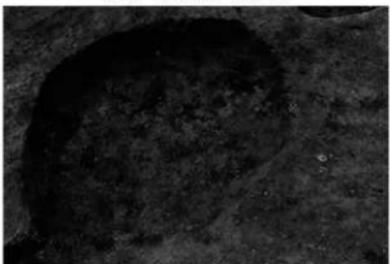
SK491 碓出土状況（南東から）



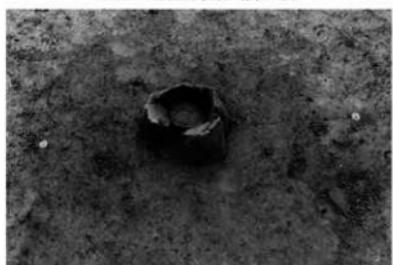
SK521 完掘状況（南から）



SK524 碓出土状況（南から）



SK540 完掘状況（東から）



SK547 遺物（623）出土状況（東から）



SK559 完掘状況（東から）



SK570 完掘状況（南から）



SK572 碓出土状況（南から）

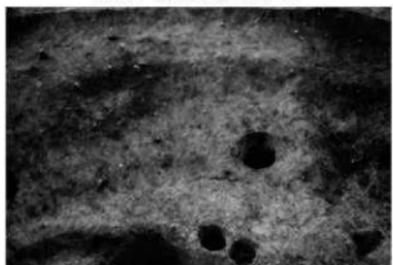
図版 19 繩文時代前期の遺構 (16)



SK603 總出土状況（北から）



SK672 完掘状況（西から）



SK684 完掘状況（南東から）



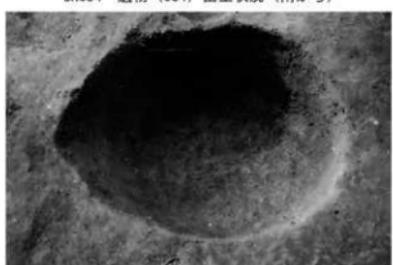
SK684 遺物（633）出土状況（南から）



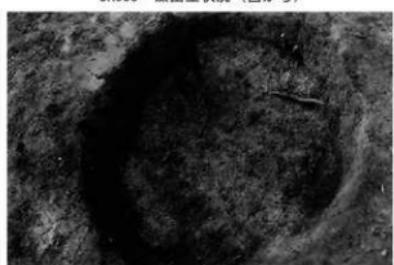
SK684 遺物（634）出土状況（南から）



SK696 總出土状況（西から）



SK698 完掘状況（南から）



SK720 完掘状況（南から）

図版 20 繩文時代中期の遺構（1）



SI18 完掘状況（南から）



SI19 完掘状況（南から）



SI19-炉 焼土検出状況（南から）



SI19 遺物 (673) 出土状況（北から）



SI19 遺物 (676・677・679) 出土状況（西から）



SI20 完掘状況（南から）

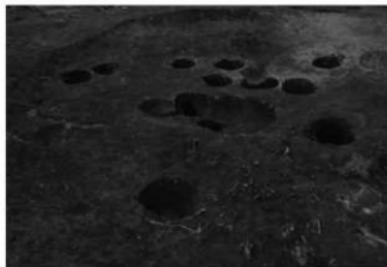


SI25 完掘状況（東から）



SI25-炉 完掘状況（東から）

図版 21 縄文時代中期の遺構（2）



SI26 完掘状況（東から）



SI27 完掘状況（東から）



SI27- 炉 烧土検出状況（東から）



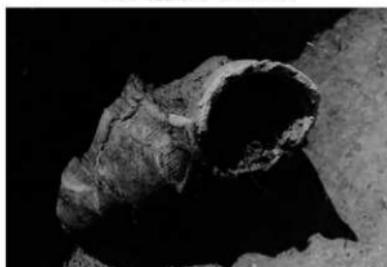
SI29 完掘状況（東から）



SI32 完掘状況（南東から）



SI32- 炉 土層断面（南から）



SI32 遺物（700・701）出土状況（東から）



SI33 完掘状況（南東から）

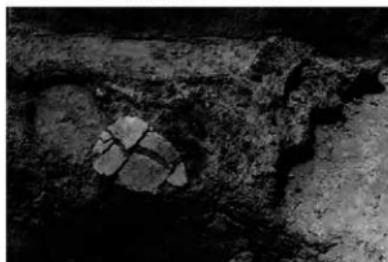
図版 22 繩文時代中期の遺構（3）



SI33 炭化材検出状況（北東から）



SI33 遺物（730）出土状況（南から）



SI33 遺物（731）出土状況（南から）



SI34 完掘状況（東から）



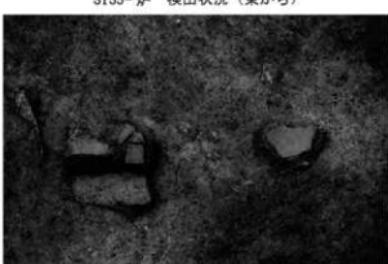
SI35 完掘状況（東から）



SI35-炉 検出状況（東から）



SI35 遺物（738）出土状況（北から）



SI35 遺物（741）出土状況（北から）

図版 23 繩文時代中期の遺構（4）



SI37 完掘状況（東から）



SI38 完掘状況（東から）



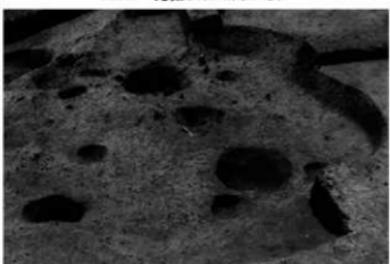
SI39 完掘状況（東から）



SI41 完掘状況（南から）



SI41- 炉 検出状況（南から）



SI46 完掘状況（東から）



SI46- 炉 検出状況（南から）



SI48 完掘状況（南西から）

図版 24 縄文時代中期の遺構（5）



SI48- 炉 完掘状況（南から）



SI48 遺物（789）出土状況（西から）



SI48 遺物（790）出土状況（東から）



SI48 遺物（801）出土状況（北から）



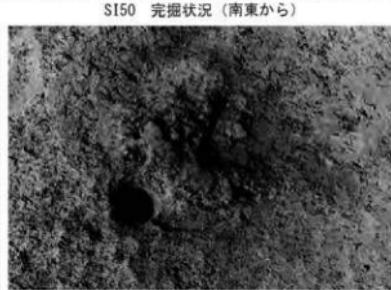
SI48 遺物（803 - 804 - 817）出土状況（東から）



SI50 完掘状況（南東から）

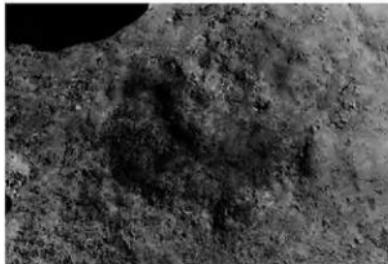


SI50- 炉 1 検出状況（南から）

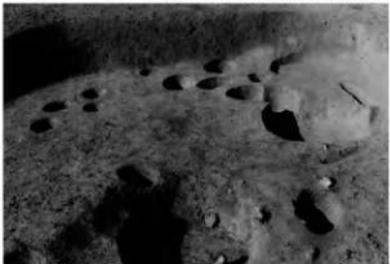


SI50- 炉 2 検出状況（南から）

図版 25 繩文時代中期の遺構（6）



SI50-炉3 検出状況（南東から）



SI51 完掘状況（南から）



SI51-炉1 検出状況（南から）



SI51-炉2 検出状況（南から）



SI51-炉3 土層断面（南東から）



SI52 完掘状況（南から）



SI52-炉 完掘状況（南から）



SJ3 遺物（876・877）出土状況（西から）

図版 26 縄文時代中期の遺構（7）



SJ3 完掘状況（西から）



ST13 磚出土状況（北から）



ST14 遺物（879）出土状況（南から）



ST19 完掘状況（東から）



ST22 完掘状況（南から）



ST22 磚出土状況（南から）



ST24 完掘状況（南から）



ST24 磚出土状況（南から）

図版 27 縄文時代中期の遺構（8）



ST32 遺物 (885・888・889) 出土状況 (南から)



ST34 縮出土状況 (東から)



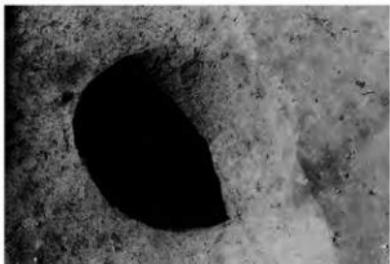
ST35 遺物 (891～895) 出土状況 (東から)



ST36 縮出土状況 (西から)



ST37 縮・遺物 (898) 出土状況 (北から)



ST40 完掘状況 (南から)



ST43 遺物 (901～903) 出土状況 (東から)

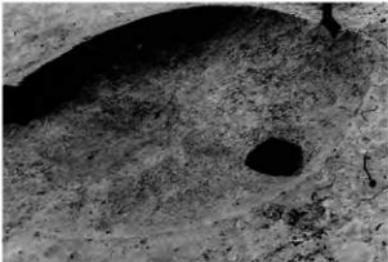


SK582 縮出土状況 (南から)

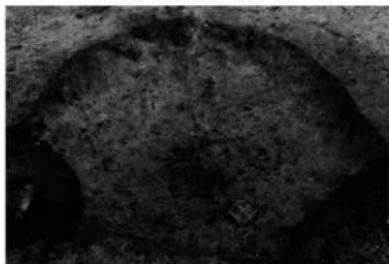
図版 28 繩文時代中期の遺構 (9)



SK612 完掘状況（北から）



SK605 完掘状況（東から）



SK612 完掘状況（南から）



SK614 完掘状況（南から）



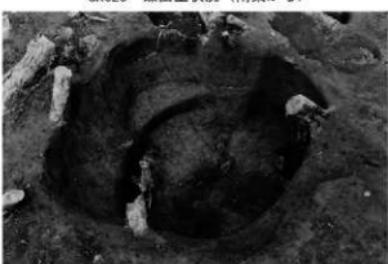
SK615 完掘状況（南から）



SK628 破出土状況（南東から）

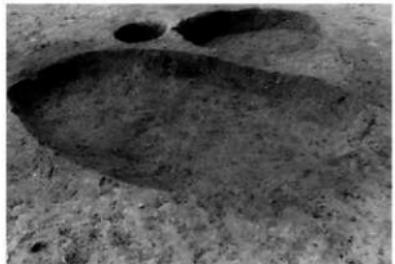


SK638 破出土状況（南から）



SK642 完掘状況（南から）

図版29 縄文時代中期の遺構(10)・弥生時代以降の遺構(1)



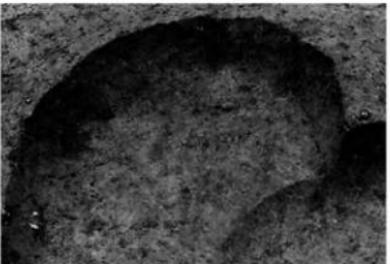
SK675 完掘状況（南から）



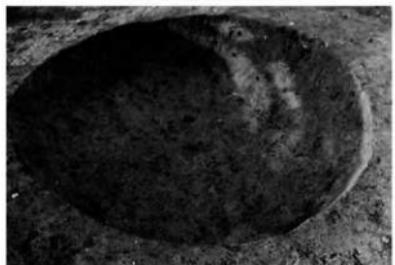
SK701 完掘状況（南から）



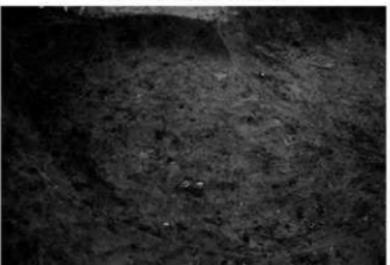
SK705 完掘状況（西から）



SK717 完掘状況（南から）



SK718 完掘状況（南から）



SK719 完掘状況（南から）



ST15 遺物（945～947）出土状況（北から）



ST15 遺物（945～947）出土状況（西から）

図版 30 弥生時代以降の遺構（2）



SZ 1 - 周溝 完掘状況（西から）



SZ 1 - 主体部 1 完掘状況（東から）



SZ 1 - 主体部 2 完掘状況（北から）



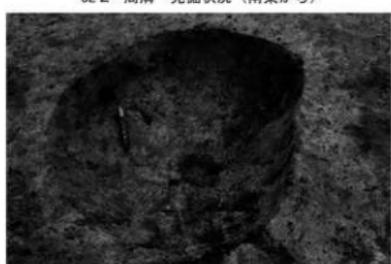
SZ 1 - 周溝 遺物（948）出土状況（東から）



SZ 2 - 周溝 完掘状況（南東から）



SZ 2 - 主体部 完掘状況（東から）



ST29 遺物（952）出土状況（東から）



SK335 遺物（961）出土状況（東から）